

# 『子供は宝』―教会学校は神の国の宝倉―

西宮聖愛教会 福本 行宏



この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである。 マタイ一八章四節

## I、高価で尊い幼子の魂

全世界の富を積み重ねても、ひとりの人の魂にはその値打ちは遥かに及びません。値千金といいますが、子供の魂は千金どころではありません。イエス様は「子どもの魂ほど、大切なものはありません」と切実に訴えておられます。

## II、喪失の悲嘆の事実

イエス様は、ルカ19:10で「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです」と言われました。ひとりの魂の喪失は、神にとっては耐え難いことです。私たちは今、子どもたちが失われている、若い魂が失われているという現実を知らなければなりません。

今回起きた東日本大震災・大津波、原発事故によって、多くの人々が多くのものを失ってしま

いました。①愛する家族の喪失、②身体的喪失、③所有物の喪失、④環境の喪失、⑤役割の喪失、⑥自尊心の喪失。(上智大学グリーンフケア研究所公開講座『悲嘆について学ぶ』より)

## III、天に宝を積む

「自分の宝は、天にたくわえなさい。(中略)あなたの宝のあるところに、あなたの心もある」(マタイ6:20-21)。宝を大事にするのは万人共通するところです。私たちは子どもというかけがえない宝をもっと大切に、天に積み上げて参りたい、と願っています。

「原点回帰」：方策や宣教プログラムも大切ですが、もっと大切なことは、祈りとみ言葉に帰ることです。神のみ言葉を信じ、そこに聖霊が働いてみ言葉のようになされていくという原点に帰っていくことです。地道ですが教会学校の働きも、ここに根ざして進めていくことが大事です。

宝を天に積み上げて行くためには、①お祈りとみ言葉、②ひとりの魂の値積もりを身に付ける、③イエス様への愛と献身をキープする、④み言葉の種蒔きを絶えず行つ、⑤語るよりも聞くことを優先させることです。

# 牧羊者

## 目次

巻頭言	1
目次	2
カリキュラム	3
教師養成講座 「いきいきCSS礼拝」	4
キリストの教えと働き	15
クリスマス	63
クリスマス	11 / 27 / 12 / 25
牧羊ひろば（神戸中央教会）	93
おわりに	98

### 〔凡例〕

- 1、原語について：ギリシャ語は〔ギ〕、ヘブル語は〔ヘ〕、アラム語は〔ア〕で表記しています。
- 2、礼拝メッセージ例の最後の「さんび」の略記について  
「ホーリネス・」〔ホ・〕……………日本ホーリネス教団  
「インマヌエル・」〔イン・〕……………インマヌエル教会学校部  
「日キ・」……………日本キリスト教団出版局

# カリキュラム

(二〇二一年十月～十二月)

## キリストの救いを知って

ヨハネ1:29

### ●キリストの教えと働き

行事	テーマ	聖書	暗唱聖句
10月2日	不信仰を取り除く	マルコ9:14～29	同上23
9日	幼子のような信仰	マルコ10:13～16	同上15
16日	仕える生き方	マルコ10:35～45	同上44
23日	切なる信仰	マルコ10:46～52	同上52
30日	世の光キリスト	ヨハネ8:1～12	同上12

### ●クリスマス

11月6日	神のみわがが現れるため	ヨハネ9:1～11	同上3
13日	羊飼いきリスト	ヨハネ10:1～15	同上11
20日	神の栄光を見る信仰	ヨハネ11:17～44	同上40
11月27日	アドベント 収穫感謝	預言されたメシア誕生 イザヤ9:1～7	同上6
12月4日	祈りの答え	ルカ1:8～57 66	同上13
11日	お言葉どおり	ルカ1:26～38	同上38
18日	キリスト誕生の場所	ルカ2:1～7	同上7
25日	クリスマス 年末感謝	喜びの知らせ ルカ2:8～20	同上11

行事

テーマ

聖書

暗唱聖句

# 「いきいきCS礼拝」

北大阪教会 山本敬夫

二〇〇八年度 大阪教区CS教師研修会の講演改訂



教会学校（日曜学校）の働きは、いろいろあります。その中で、礼拝と伝道と教育は教会学校の三本柱のように考えられています。今回は「いきいきCS礼拝」とのテーマで、礼拝について考えます。また、多くの教会では、教会学校の礼拝を幼稚園・小学校と呼んでいることにならつて、幼稚園・小学校を対象を限定して考えたいと願います。

## I、礼拝とは

### 1、礼拝の用語

さて、礼拝について考える時、私たちの考えや、この世の方法を検討する前に、聖書が礼拝について何と教えているかを知ることが大切です。聖書で「礼拝」について使われている言葉は、旧約聖書では、「奉仕する、お辞儀をする、仕える、求める」などの意味があります。また、新約聖書では、「ひざまずく、お辞儀をする、奉仕、公の奉仕、告白的一致」などの意味があります。

### 2、礼拝の定義

以上の言葉から分かるように、礼拝はいろいろな要素が含まれています。そして、私たちは礼拝において、豊かな表現を用い、心と行為によって、神に礼拝を献<sup>ささ</sup>げる



ことができます。これらの言葉に共通している概念は、臨在される生ける真の神の前にひざまずき、奉仕し、仕えることです。ですから、礼拝を考える時、神の臨在を忘れたり、神の臨在を意識しない礼拝は、少なくとも聖書が示す礼拝ではありません。ですから、礼拝の中で行われるプログラムは、人の意識を神の臨在へと導くように組まれることが大切です。

また、これらの言葉は、礼拝が神との霊的な関係であることを示しています。ですから、礼拝が生き生きとなるためには、礼拝が霊的になることが大切だとわかります。

## Ⅱ、礼拝の重要性

では、礼拝は本当に大切なのでしょうか。牧師はもちろんのこと、CS教師が礼拝の重要性を自覚しなくてははいけません。そうでないと、どうしてもたちに礼拝を献げることが勧めることができずしょうか。自分の確信だけでなく、聖書から礼拝の重要性を学びましょう。そして、教師自身が、神に喜ばれる礼拝者となりましょう。

### 1、礼拝は人間が創造された目的です

ここで、創世記2章7節をお開きください。ここに、人がどのようにして生きる者になったかが教えられています。創世記1章では、神がこの世界をどのように造られたのか、人が造られた目的が記されています。2章では、人間がどのような存在であるかが記されています。神は人を土やちりから造られました。大変に精巧な泥人形でしたが、動きませんでした。ところが、神が人間の鼻から息（霊）を吹き入れた時、人は生きる者となりました。私たちは、神からいただく霊的な息を必要としています。

さらに、神が人を霊的な存在として創造されたのは、人を礼拝者として創造されたからです。実際に、エデンの園でアダムとエバが神との礼拝を持っていたと考えられます（創世記3・8）。また、アダムとエバの最初の子どもたちは、神に献げ物を供えることが大切なことだと知っていました。これらのことから、人は神に礼拝を献げることが当然のことと考えていたことがわかります。

礼拝の中で、神との関係が正しくされ、魂に命の息を満

たしていただくなら、人は生きる力が与えられます。

## 2、礼拝は神が求めておられる行為です

神は、人が礼拝を献げること求めておられます。ですから、人は礼拝をささげることができます。神が拒否されるなら、人がどんなに立派な礼拝を用意しても、受け入れてもらえません。出エジプト20章1～11節をご覧ください。ここには、有名なモーセの十戒が教えられています。前半の4つは神に関する教えであり、礼拝に関する戒めです。さらに出エジプト3章12節で、神はモーセに「あなたがたはこの山で神に仕えるであろう」と、イスラエルをエジプトの奴隷から解放する目的を教えられました。ここで言われる「仕える」とは礼拝のことです。神は、イスラエルを礼拝の民としてエジプトから救い出されました。

同じように、神は私たちをイエス様の十字架の命によって罪の奴隷から解放してくださいました。このように、神は、私たちのような小さな人間の礼拝を求めておられます。本来、礼拝を献げたくてもささげることが許されなかった私たちです。ただただイエス様の十字架の救い

によつて、礼拝の民に加えていただいたのです。罪が赦された感謝をもつて、神に礼拝を献げましょう。

## 3、礼拝は神を喜ばせる行為です

神は、私たちの礼拝を喜んで受け入れてくださいます。しかし、それはどんな礼拝でも良いというわけではありません。イエス様はスカルの井戸に水を汲みに来た女性に声をかけて導かれました(ヨハネ4章)。この時、イエス様は彼女に「父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである」(ヨハネ4章23節)と教えられました。「このような礼拝をする者たちを」と言われているように、神を喜ばせる礼拝があることを示しておられます。それは「霊とまこと」をもつて礼拝する人です。この解釈はいくつかあります。それぞれの教会の理解に従ってください。大切なことは、キリストの十字架の恵みに感謝して、聖霊により、真理の言葉(霊)によつて、真心からの礼拝を献げることです。

さらに、ローマ12章1節では「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによつてあなたがたに勧める。あなた

がたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である」と教えています。「そういうわけで」とは、キリストの十字架による罪の赦しと救い、神の限りない愛をいただいている事実のことです。このように、神から身に余る大きな恵みをいただいているので、私たちは「神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物」として、自分を神に献げることが勧められています。

このように、神を喜ばせる礼拝とは、神との霊的な交わりがなされ、真理によつて立てられ、神の御心に従つて自分を献げる決心がなされることです。ここで注目していただきたいことは、「聖なる供え物として」と教えていることです。礼拝をとおして、罪深い私たちを神が聖なる供え物として受け入れてくださる事実です。

## 4、礼拝は永遠に続く

礼拝はこの世界だけの行為ではありません。礼拝は永遠に続きます。この点については黙示録4章9節をお読みくださればよく分かると思います。私たちは、今の礼拝をと

おして、神の国の礼拝の恵みの一部分を味わっています。このように、礼拝は神にとつても、私たちにとつても大切なことです。決してレジャーや気分転換や義務や活動の一部分ではありません。人生の最優先事項です。

## Ⅲ、礼拝の要素

礼拝にはいくつかの要素があります。その中の大切な要素について見てみましょう。

### 1、祈り

祈りは神への願いを含みますが、神との会話です。心を静めて、神に集中して、神の語りかけを聞きます。また、神の恵みに応答して、自分の決心を神に祈ります。礼拝において、多くの場合は会衆を代表した祈りになるでしょう。その時には、祈る人と心を合わせ、自分の祈りとして神に献げます。

## 2、賛美

賛美とは、神をほめたたえることです。創造主なる神の偉大さ、主なる神の権威、全能の神の力などを心からほめたたえます。私たちは、神が賛美されるに相応しい神だから賛美します。私たちが心から神を賛美する姿を未信者の人に見てもらうことは、良い伝道となります。また、神の守りや導き、養いや保護、赦しや救いなど、感謝を献げます。

## 3、メッセージ

メッセージはプロテストメントの特徴です。私たちは真理の言葉をとおして、神の御心を悟り、神に従っていく決断をします。特に、メッセージを語られる神にひれ伏します。また、メッセージをとおして自分の罪を悟り、キリストの十字架の血によって、罪のきよめの確信をいただき、神の民として生きることを決断します。

よく「教会は説教によって立ちもし、倒れもする」と言

われますが、説教をどのように聞いて、正しく応答するかは、礼拝者の責任です。

これまで、聖書が礼拝をどのように教えているかを考察してきました。子どもたちが生き生きとなる前に、教師である私たちが、生き生きとした礼拝者となることが大切であり、子どもたちに対して礼拝者の模範となり、礼拝をとおして靈的に生き生きとされていることが大切です。神の臨在を意識した礼拝者となりましょう。

## IV、教会学校の礼拝

礼拝について、聖書がどのように教えているかを一緒に考察してきました。これから、どうすれば教会学校の礼拝が生き生きとなるかを考えていきたいと思います。ただ、ここで困ったことが起こります。それは、聖書は子どもの礼拝と大人の礼拝を分けていないということです。個人礼拝、家庭礼拝、共同体としての礼拝を考える時、大人も子どもと一緒に礼拝を献げることは大切だと思います。このことについては、後で考えましょう。

では、教会学校で礼拝が行われるようになった経緯を少し考えてみましょう。最初、教会学校は子ども教育のために行われていました。当初は「学校」であり、礼拝の要素はありませんでした。教会学校を教会の働きとして考える流れの中で、伝道と礼拝の要素が取り込まれるようになりました。

また、子どもの年齢に合わせてメッセージを語り、聖書理解を与えるためには、大人と分離することが当然のように考えられた結果です。ですから、ある教会では、教会学校を子どもの礼拝と教育と考えます。ある教会では、教会学校を子ども伝道の場所と考えます。また、ある教会はその両方を目指そうとします。そうすると、礼拝に対する取り組みも、重点も変わります。ですから、教会学校を礼拝か、伝道かで分ける必要があります。もし教会学校を礼拝の時とらえるなら、子ども伝道集会を他で持つ必要があるでしょう。もし教会学校を伝道の時とらえるなら、子どもたちが神の前に出て、霊的な命をいただく時を持つ必要があるでしょう。

最近では、教会学校を楽しむためのアイデアがいろいろな本で紹介されています。ある人は「楽しいゲー

ム、新しい賛美を取り入れると子どもたちが集まる」と考え、新しい方法を取り入れようとするでしょう。しかし、子どもを集めるためというのは、動機として間違っていると言えるでしょう。

教会学校が、楽しいゲームや遊びを提供しても、子どもたちが熱中している携帯ゲームや、魅力を感じるテーマパークと比べるなら、どちらが楽しいかは一目瞭然です。この世の楽しみで勝負するなら、教会学校は敗北しかありません。教会は教会が与えることができる、本当に大切なことを提供することに集中する必要があります。私は、楽しいプログラムがいけないと言っているのではなく、楽しいプログラムが外した方法論、間違った動機は避けなければいけないと言いたいのです。

そして、教会学校は子どもたちにとって、楽しい場所ではなく、自分にとってなくてはならない大切な場所になることです。では、教会が子どもたちに与えることができる、本当に大切なことは何でしょうか。

## 1、霊的な命

先ほど、人は神の息を吹き入れられて生きる者となったことを見ました。子どもであっても霊的な存在です。

彼らが熱中しているゲームは、楽しさや達成感を与えるかも知れません。しかし、霊的な命を与えることはできません。子どもたちが熱中しているスポーツは、楽しさや仲間と一致する高揚感を与えるかも知れません。しかし、霊的な命を与えることはできません。子どもたちに必要なことは、「霊的な命」です。

### ①わかりやすいメッセージ

み言葉は、人に命を与えます。けれども、子どもが何を聞いたのかを理解できないメッセージであるなら、どうして子どもたちに確信を持たせることができるでしょうか。

わかりやすいとは、何を伝えているのかが分かると言うことです。①話の筋が通っている。②言葉が簡単である。

③具体的にイメージできる、などの要素があります。聖書物語の説明に集中してしまうと、何が本当に大切なことなのか不明瞭になりやすいので、気をつけましょう。

小さな子どもは、言葉から具体的なイメージを受け取ることが難しいので、フラッシュカードを用いたり、紙芝居

を用いたりするのも良いでしょう。また、話の中で簡単に絵を描きながら、話を進めていくのも良いでしょう。下手な絵でも、子どもたちは興味深く話を聞いてくれます。

また、メッセージの結論も大切です。神の恵みに、どのように応答したらよいのかを具体的に示します。具体的にとは、自分はいつ、どこで、誰に、何をどのようにするのかを考えることです。子どもたちの生活を観察して、適切な「適用」を考えましょう。そのためには、メッセージに関連した、模範となる例話を用意すると良いでしょう。

子どもたちが神の恵みに感謝して、自分の意志で正しいことを判断するだけでなく、神に喜ばれることを自ら選んで、それを行うことができるように、礼拝を通して、子どもたちが造り変えられるのを見たいと、私は願っています。

では、北大阪教会がそのように変えられているのかと尋ねられますと、残念ながら、まだそうなっていないと答えるしかありません。私自身、第一聖日にCSメッセージをさせてもらっていますが、なかなか、目に見えるように子どもたちが変わりません。今日、私が提案していることは、神が与えてくださっている大きなチャレンジだと思います。もし、私たちの教会学校が、子どもたちに命の息を

吹き入れるものとなつていつたら、子どもたちは本当に生き生きとなります。(最近、子どもたちにも霊的な変化が現れてきました。これは神の恵みであることを感謝します)。

## ②霊的なメッセージ

メッセージは分かりやすいだけでなく、霊的でなければいけません。ただの聖書の説明で終わったり、道徳的教訓で終わってはいけません。神の明確なみこころを示し、それに沿って生きるようにと、励まし、強めることが大切です。

そのために、説教準備、分級の準備で大切なことを提案します。まず、与えられている聖書の箇所を何度も読みましょう。段落であるなら、その段落が含まれる章全体を何度か繰り返し読みます。その時、自分が取り扱う段落が、その章全体でどのような流れの中にあるのかを把握します。さらに、自分が取り扱う段落を最低二〇回は読みましょう。その時、言葉を味わいつつ、ゆつくりと声に出して読みましょう。そうすると、その段落で、何が教えられているのかがわかります。そして、さらに聖書を味わって繰り返し読むなら、神が子どもたちに語れと言われていること

が何であるかが分かるようになります(回数は個人差や、その時の聖書の理解のしやすさによって違います)。とにかく、聖書から神のメッセージを正しく把握することです。伝えるべきメッセージを主から教えていただいたなら、それをどのように子どもたちに伝えるのかを考えます。何よりも、子どもたちの心が開かれて、み言葉を受け取ることができるよう祈りましょう。霊的な命を与えるのは、説教者の努力ではなく、聖霊の働きです。私たちが子どもたちのことを愛して祈り続けるなら、聖霊が働いてくださり、子どもたちの心にみ言葉を植え付けてくださり、霊的に生きる者としてくださることを信じましょう。

さらに大切なことは、神の臨在です。講義の最初の方でも説明したように、礼拝はこの世を造られた本当の神を拝むことです。神の臨在は目には見えません。ですから、説教者自身が神の臨在を持ち運ぶ器となることが大切です。そのために、自分自身のため、子どもたちのため、教会学校の教師、集会のために祈りましょう。説教者だけではありません。CS教師が、そのように神に祈り、寄り頼むなら、神の臨在を子どもたちも感じることができるようになるでしょう。

## 2、霊的な感化力

教師が霊的な感化力を身につけることができたなら、子どもたちの信仰は強められ、教会学校はなくてはならない場所になります。

### ①愛による感化

人は愛されていることが分かると、生き生きとします。また、愛されているところに自分の居場所を見つけます。イエス様の弟子たちがそうであったように、私たちがそうであったように。自分が愛されていることを感じる時、子どもたちは教会学校を愛するようになります。ですから、私たちはキリストの愛をいただき続ける必要があります。聖書をご覧ください。1ヨハネ4章12節には「もしわたしたちが互に愛し合うなら、神はわたしたちのうちにいまし、神の愛がわたしたちのうちに全うされるのである」と教えています。私たちが子どもたちを愛する時、子どもたちは見えない神を知ることができます。

では、具体的にどうしたらよいでしょうか。まず、子ども

もたちの話を良く聞くことです。教会学校の教師は、教会でも他の奉仕を兼任している人が多いので、なかなか子どもたちのために時間を取るのは難しいかも知れませんが、けれども、大切な時間を子どもたちのために少しでも使って話を聞くなら、子どもたちは愛を感じます。

さらに、子どもたちの質問に聖書的な回答を与えることです。この社会での回答ではなく、神の言葉による確信を与えることです。

私が小学校5年生の頃、学校で「人は猿から生まれた」となり、大変驚きました。家に帰って母に「人間は神が造られたのか、猿から生まれたのか」と尋ねました。母は少し考えて「聖書にはどう書いている」と私に尋ねました。私は「神が人を造られた」と書いてあると答えました。すると母は「聖書が書いているとおりです」と教えてくれました。その時、私はこの世界を造られた神をはっきりと信じることができました。

そして祈ることです。子どもが打ち明けてくれたことや問題について、子どもと一緒に祈ることです。祈ることによって、神が生きておられることをよく理解することができます。また、子どもたちは、自分のために先生が心を込



めて祈ってくれる時、自分が愛されていることを感じます。教師が祈るだけではありません。分級で子どもたちに祈ることを教える教師は幸いです。祈りは子どもたちを神に近づけ、神を体験させます。その日に暗唱した聖句を用いて祈ることを導いてください。子どもたちは一週間、教師の助けなしに信仰生活を送らなければなりません。その時、子どもたち自身が祈るなら、神の恵みはもっと豊かに子どもたちに注がれることでしょう。

## ②信仰生活による感化

C S教師が信仰生活をしつかりと送っているのを見る時、子どもたちは安心して教会学校に来るようになります。礼拝で語られたメッセージに従って生活をしている教師、心から喜んで礼拝を献げている教師、聖書のみ言葉を良く暗唱して、それに従って生きている教師、祈り深い教師など。私たちが神と共に信仰生活を送っているなら、子どもたちはどのように生きるべきかを学びます。また、聖書に従って生きることが大切であることを学びます。ある点で、説教以上に感化力があるかも知れません。

神の言葉に従うことが最も良いことを知っている教師は、

確信を持って子どもたちに聖書に従って生きる事を勧めます。子どもたちは教師の信仰によって育つ面があります。

さらに、祈りの生活です。子どもたちのために名前を挙げて祈ることです。その子どもの一週間の生活や、特別な祈祷課題を見つけて祈りましょう。また、いろいろな問題が起こった時に「祈ろう」と言って祈りましょう。

## V、小さな証

私は、日田福音キリスト教会で牧会している時に、子どもたちを礼拝に出すことを決めました。その理由は、子どもたちに礼拝の恵みを体験して欲しかったからです。それは親子礼拝とも違います。一人の人間として大人と一緒に礼拝を献げることです。

そのために、説教で心がけたことがあります。一つは、子どもに分かる話を一部分でも入れることです。さらに、小学校高学年に分かる言葉を選ぶことです。また、話が複雑にならないように気をつけました。そのように努力

しました。

CS教師にお願いしたことがあります。それは子どもたちが礼拝に出ることを勧め、励ますことです。確かに、礼拝の恵みを知るまでは、子どもたちにとって礼拝は退屈な時間です。ですから教師の励ましと協力が必要です。

さらに、親にも協力していただきました。それは、子どもを礼拝に出すようにしつけることと、礼拝で聞いたメッセージを、家に帰って子どもと分かち合うことです。「今日の礼拝は誰の話だった。今日の礼拝メッセージで覚えていることはある？」など、簡単な質問でよいのです。そこで、礼拝の恵みを分かち合い、子どもの生活に適用してもらうことです。

さらに、教会員にも協力をお願いしました。それは、礼拝で子どもがうるさくしても我慢してもらうことです。子どもは環境にすぐになれます。また親に「静かにしなさい」と言わないようにも協力してもらいました。1歳で泣いている子どもも、礼拝に継続するなら3歳になる頃には席にちゃんと座ります。小学生中級になると、聖書に線を引いたり、メモを取ったりする子どもも出てきます。子どもは非常に適応力があり、成長が早いです。礼拝メ

ッセージも、全てではなくても、一部分でも理解できるようにになります。そして、自分で応答することができるようになります。また、日曜日には礼拝に出ることが自然になります。

日田福音キリスト教会で起こった変化を紹介します。まず小学生が、教会のために何ができるかを考えて、昼食の準備や、後片付けを手伝うようになりました。自発的に、イエス様のために何かをしたいと願うことで、彼女たち<sup>なら</sup>に倣<sup>なら</sup>って、小さい子どもたちも喜んで手伝うようになりました。トラクト配布を小学生が奉仕します。この時は、大人も一緒に行って、事故や迷子にならないように配慮します。中高生は伝道集会を開くようになります。このように、主を愛する愛と自発的応答がされるようになりました。

北大阪教会でも、子どもたちが礼拝に出るように協力してもらっています。子どもたちが礼拝の恵みを受け取ることができるようにと、祈り続けています。二年間続けていますが、最近、子どもたちが礼拝に出るようになりました。教会学校の先生や保護者の方の努力に感謝しています。子どもが礼拝を献げることは子どもの祝福になるのです。

## 聖書 マルコ9・14～29

## テーマ 不信仰を取り除く

## 序論

(福井文彦)

三人の弟子を伴い高い山に登られ、イエスは変貌へんぼうされ神の栄光が現されました。そのとき、山の麓ふもとで不信仰な出来事が起こっていました。以前に病をいやす権威を与えられていた弟子たちが、病をいやすことが出来ず、律法学者たちと論じ合っていたのです。そこへ下山して来られたイエスが病をいやされ、「このたぐいは祈りによる」と弟子たちに信仰による祈りについて教えられたのです。

## 一、悪霊につかれた息子

変貌を通して神の栄光を現されたイエスは、その後下山されました。そのとき、山の麓で大勢の群集に弟子たちが取り囲まれて、律法学者と論じているのに出会われたのです。それは、弟子たちがへ口をきけなくする霊につかれていた息子をいやすことができないために起こったことでした。

マタイ17・15では、父親が息子のことを「主よ、わたし

の子をあわれんでください。てんかんで苦しんでおります」と言っています。確かに、その症状はてんかんによく似ています。しかし22節によれば、この(霊はたびたび、この子を火の中、水の中に投げ入れて、殺そうとしました)。おそらく殺意のある悪質な霊であつたのでしょう。

聖書は、人間が神との正しい関係で生きている限り不死であつたと言っています。それにもかかわらず、サタンの誘惑により人間が神に反逆した結果、人間は死ぬ者となりました。そこに病気の根本原因があり、病気の背後に悪霊の働きがある場合もあります。しかも、(幼い時から)なので、本人も両親も非常に苦しんでいました。

## 二、無力な弟子たち

イエスが(何を論じているのか)とお尋ねになりました。すると、(それでお弟子たちに、この霊を追い出してくださるよう願いましたが、できませんでした)と、この父親は悲しい報告をしました。弟子たちは不信仰のため病をいやすことができなかったのです。

弟子たちは、以前は悪霊を追い出し、病をいやすことができたのに、このときは全く無力でした(6・7)。一方、

律法学者たちは自分たちにその力がないのに、無益な議論を弟子たちと戦わせていました。不信仰は人を無力にし、さらに外からの非難や批判に対して辛抱<sup>しんぱう</sup>できなくなつて無益な議論を引き起こすのです。

このような状況をお知りになつたイエスは（ああ、なんという不信仰の時代であらう）とその不信仰を嘆かれたのです。それは弟子たち、律法学者、群衆のすべてに對してであるが、特に弟子たちの不信仰に對してです。しかし、これは当時だけのことでなく、現代の私たちに對しても問われているのです（ルカ18・8、Ⅱコリント13・5）。

### 三、信仰による祈り

不信仰を嘆かれたイエスですが、（その子をわたしの所に連れてきなさい）と命じられました。すると父親は、（へしできますすれば、わたしどもをあわれんでお助けください）とイエスに願つたのです。このとき、彼は（できますれば）とイエスの力を問題にしたのです。するとイエスは（もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる）と言われました。イエスは、問題は「イエスの力」ではなく「父親の信仰」にあり、「信じる」かどうか

にかかっていると指摘されたのです。

このことばを聞いた父親は、（信じます。不信仰なわたしを、お助けください）と叫びました。この父親は（信じます）と言つておきながら、なお（不信仰なわたし）と言つているのは不可解に思えるかもしれません。しかし、彼は（不信仰）な自分を徹底的に自覚したのです。

その信仰は、このお方はすべてのことをなさることができ、という信頼です。裏を返せば、このお方によらなければ何もできないという自覚、意識、確信、そして自己無力です。彼は（わたしを、お助けください）と自己の無力さを痛感しています。すなわち自己絶望、自分に頼まない、自己不信頼から来る「主への絶対信頼」の信仰です。

### 結論

自己の無能無力を常に自覚し、信仰が形式的習慣的なものにならないように警戒することです。さらに、（もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる）と言われたイエスのお言葉に全信頼を置いて、神に祈る者となりましょう。そのとき、この子がいやされたと同じように、主は最もふさわしい解決を与えてくださるのです。

## 研究資料

(小平徳行)

変貌山の出来事の後、イエスと三人の弟子たちが山を降りてきた時のことである。弟子たちは、悪霊に取りつかれた子どもをいやすことができなかったが、イエスによつていやされた。本福音書では、この出来事についてマタイやルカよりも詳細に記されている。

## テキスト

**14 論じ合っていた** 弟子たちと律法学者たちとの議論については、マルコだけが記している。不信仰は人を無力にし、無益な議論を引き起こすものである。

**15 非常に驚き** イエスの顔に変貌の時の栄光が残っていたからではないかという説や、イエスがだれも予期しない時に突然に、しかも必要としている好時期に現れたからかもしれないという説もあるが、推測の域を出ない。

**17 口を聞けなくする霊** マタイは、父親が息子について「てんかん」であると言っていることを記録する（マタイ17・15）。しかし、マルコは医学的な病名よりも、背後にある悪霊の働きを強調している。てんかんであることより、悪霊の力のもとにあることが問題であった。

**18 お弟子たちに、…願いましたが、できませんでした** かつて弟子たちはイエスから、けがれた霊を制する権威が与えられたが（6・7）、今回その権威を発揮することができなかった。

**19 ああ、なんと！ 不信仰な時代であらう** これは誰に對して言われたのだろうか。おそらく弟子たち、律法学者、群衆のすべてに對してであると思われるが、特に弟子たちの不信仰を嘆いたものであらう（マタイ17・20）。失敗の原因は不信仰にあった。その子をわたしの所に連れてきなさい イエスはこの問題を恐れずに引き受けた。私たちは他のどんな方法が役に立たなくても、いつもキリストのもとに行くことができるのである。

**22 霊はたびたび…殺そうとしました** 息子の病は、悪霊に取りつかれて症状が慢性的に現れており、絶望的な状態といえた。この自己破壊的な行動は悪魔的な力によるものである。しかしできますれば これは、もしできるなら、という仮定の表現であり、ここに父親の疑い（イエスが息子をいやすことができるのかどうかという）が見られる。重い皮膚病にかかった人が「みこころでしたら、きよめていただけるのですが」（1・40）と願ったこ

とと対照的である。しかし、完全に信仰がなくなってしまうわけではなかった。

**23 もしできれば、と言うのか** イエスは父親の不徹底な信仰をいさめられた。信じるとは半信半疑ではない。

**信する者には、どんな事でもできる** 神は全能であり、信じる者には神が働いてくださり、不可能を可能にしてください。解決の力ギは信じることができるかどうかにある。このすばやい切り返しは父親に信仰のチャレンジを与えた。

**24 信じます。不信仰なわたしを、お助けください** こ

こに父親の精神的、霊的な状態が的確に表現されている。前半は信仰が、後半は不信仰が表明されており、論理的に矛盾しているように見えるが、ここに信仰の真髓があるといえる。信仰は自らの不信仰を認め、神に絶対の信頼を置くことである。**お助けください** (マコエーセイ) 現在命令法が使われており、継続的な助けを求めている。22節の「お助けください」(マコエーセイ) は不定過去命令法であり、即座の助けを求めている。信仰は絶えず助けられる必要がある。

**25 けがれた霊をしかって** これはイエスが通俗的な迷信

を満足させるためではなく、明らかにこの息子の災いの原因として悪霊に言及している。**わたしがおまえに命じる** イエスは命じるだけでけがれた霊を追い出した。ここにイエスの権威がある。

**29 祈りよならなければ** 霊的な権威は人が手にして自由に用いることができるものではなく、ただ祈りを通して、神の全能の力に信頼することによるのである。弟子たちの無力の原因は祈りの欠如にあった。写本によっては「祈りと断食によらなければ」となっているものもあるが、後代の付加であろう。しかし、断食は祈りの真剣さを表すものであり、実際、キリスト教の歴史において、そのような祈りを通して神の御力が現わされたことは確かである。これを決して軽んじてはならない。マタイ17・20では、弟子たちの無力は信仰の不足が原因であると言っている。主に信頼するところに祈りがある。

**参考図書** 山口昇「マルコの福音書」『新聖書注解・新約I』(いのちのつばね社)・A.T.Robertson "Word Pictures in the New Testament Vol.1" (BROADMAN)

聖書 マルコの福音書9・14～29

タイトル 信じて祈ろう！

暗唱聖句 もしできれば、と言うのか。信ずる者

には、どんな事でもできる。

マルコ9・23

目標 全能の主に対する信仰によって祈る者となる。

## 導入

(飯田勝彦)

皆さんは、体調が悪くなり病院に行ったことがあるでしょう。診察してもらい、風邪だったらたいいの病院の先生は「これは風邪ですね。暖かくしてゆっくり休んでくださいね。薬を出しておきます」と言われます。でも、「この先生の言うことは信用できない。薬なんて飲まなくても治るさ」と思い、お医者さんの言うことを信じないで薬を飲まなかったら、風邪をこじらせてしまいます。私たちは病院の先生を信頼して、その先生の言われる通りに薬を飲んでゆつくりしていれば風邪は早くなおるのです。病院の先生を疑えば、治るものも治りません。そのように、もし、皆さんがイエス様を疑っていれば、イエス様の恵みや力を

体験することはできないのです。

## イエス様は病の息子を救われた

今朝の箇所には、けがれた霊にとりつかれた息子が出てきます。けがれた霊によって、その息子は口がきけず、引き倒され、あわを吹き、歯をくいしばり、からだをこわばらせていたのです。息子の父親は、何とかして欲しいと思って、最初は弟子たちに頼みました。でも弟子たちには、息子からけがれた霊を追い出すことはできなかったのです。

しかしイエス様は、その息子を癒され、父親も息子もイエス様によって救われました。

皆さんには、けがれた霊によって苦しむことはないとしても、罪によって心がけがされているということはないですか。皆さんの心を罪が支配しているなら、罪が皆さんを苦しめてしまうのです。そのような人生は、決して幸せとは言えません。イエス様は、あなたを不幸におとし入れる罪から救ってくださるお方です。

## イエス様の嘆き

イエス様によって救っていただくために、とても大切なことがあります。それはイエス様を信じることです。イエス様だけがあなたを救うことができるお方だからです。

10月

## 2日 礼拝メッセージ例

イエス様は、信じる者だけにイエス様の力と恵みを与えてくださるのです。

息子の父親は最初に、弟子たちの所へ息子を癒してもらうようにと連れて行きました。でも、彼らには息子を癒すことができませんでした。なぜなら、弟子たちには息子を癒されるイエス様に対する信仰が不十分だったからです。彼らは、イエス様の力を信じて祈ることをしませんでした。

弟子たちにつかりした父親は、直接イエス様の所に息子連れて行きました。父親は、イエス様に息子の状態を話して「できますれば：助けてください」と言いました。するとイエス様は「もしできれば、と言うのか。信じる者には、どんな事でもできる」と言われたのです。父親も心の底から、イエス様が本当に息子に癒すことができることになると信じきれていなかったのです。

イエス様は、弟子たちの不信仰に対して「ああ、なんとこの不信仰な時代であろう」と嘆かれました。また、父親の不信仰に対しても嘆かれたのです。皆さんは、イエス様は、「いろいろな問題から自分を救ってくださいる方だ！」と、心から信じていますか？ また、あなたの両親やお友たちを必ず救ってくださいると信じていますか？

イエス様の願い

イエス様のすばらしい恵みと力は、イエス様を信じて祈る人を通して流れていきます。

弟子たちがけがれた霊を追いつことができなかったのは、癒されるイエス様を信じて祈らなかったからです。イエス様は弟子たちに、祈りの大切さを教えてくださいました。

皆さんは、毎日お祈りをしているでしょう。どのような思いで祈っていますか？「このお祈りは答えられないだろうなあ」とか「イエス様は、本当に祈りを聞いてくださるのだろうか」なんて、疑いながら祈っていませんか？もし、そうなら弟子たちや父親と一緒に祈ります。お祈りは、教会学校の先生が「お祈りしなさい」と言われるからするものではありません。また、お祈りはひとり言でもありません。皆さんの祈りをイエス様は聞いてくださっています。また、イエス様は、皆さんに疑わないで祈って欲しいと願っておられるのです。

## まとめ

イエス様は、皆さんの真剣なお祈りを必要としておられます。信じて祈り続けましょう。

♪すばらしい主イエスのあい♡

(ホーリネス子どもさんびか 131)





## 聖書 マルコ10・13・16

## テーマ 幼子のような信仰

## 序論

(福井文彦)

イエスに祝福していただくために、人々が幼子をイエスのみもとに連れて来ました。ところが弟子たちは彼らをたしなめたのです。するとイエスはその弟子たちの態度に憤られました。そして幼子を抱き、手をおいて祝福されたのです。それは、神の国は子どもたちのものであること、また、幼子のような信仰が神の国にはいるために必要であることを教えるためでした。

## 一、イエスの按手と祝福を求めて

イエスの時代、ユダヤ社会では、著名なラビ（律法の教師）あるいは長老のところに、子どもを連れて行って祝福を求めるという一般的な習慣がありました。それで、イエスがパリサイ人との論争を終わって、家に戻られたあと、親たちは「イエスにさわっていただくために」子どもを連れてきたのです。その子どもたちは普通六歳未満で、イエスに祝福の祈りをしてもらうためでした。

（ところが、弟子たちは彼らをたしなめた）のです。そ

れは、主があまりにも忙しかったからです。これ以上イエスを煩わすことのないように、という弟子たちの配慮だったのです。しかも、わきまえがなく、神の国の福音などとても理解できない子どもたちが、なれなれしく主のところに来てはならないという思いもあつたのでしょう。

しかし弟子たちの心の中にあつたのは、子どもたちはイエスにわざわざ時間を割いてもらうような存在ではない、という子どもを軽視する思いです。幼子を重要な存在と見ていなかったのです。

## 二、イエスと子どもたち

子どもたちを玄關払いにした弟子たちを見て、イエスは憤って言われました。（幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない）と。弟子たちは以前にも、幼子が神の国において特別な存在であることをイエスから教えられていました（9・37）。しかし、それを何一つ理解していなかったのです。また、このような者をつまずかせることは、非常に厳しい神のさばきに値するもの（9・42）ですから、イエスの憤りは当然でした。

そのため、（止めてはならない）とありますが、弟子た

10月

9日

聖書講解

ちは、幼子がイエスの所に来ることを妨害したのです。弟子たちが、その与えられた弟子としての權威を濫用し、靈的感覚が鈍くなっていました。それでイエスは憤られたのです。

イエスは「わたしの所に来るままにしておきなさい」と命じられました。エルサレムに、すなわち十字架の死に向かわれるお方が、幼子との時間をもたれました。イエスは子どもたちに自分の精力と時間を費すことを喜ばれ、積極的に子どもたちを呼び寄せられたのです。

### 三、幼子のような信仰

そこで、イエスは「神の国はこのような者の国である」と言われたのです。ここで語られている「神の国」とは、神の支配のことです。また「このような者の国」というのは、幼子の特徴をさしています。そして、「だれでも幼子のように神の国を受けいれる者でなければ、そこにはいることは決してできない」と言われました。

「幼な子のように」とは、子どもは純真無垢で罪がないということではありません。英語で言えば「childlike」です。「子どもらしい、率直な(ありのまま)、純真な、(神や人を)信頼する」と言う意味です。決して「childish」

の「子どもじみている、子どもっぽい、幼稚な」という意味ではありません。

それで、「幼な子のように」な者とは、無きに等しい者であり、自分には功績や、誇るべきものが全く無い者のことを意味しています(Ⅰコリント1:26-28)。ですから「幼な子のような信仰」とは、自分の業、力、業績、能力に頼るのではなく、ただただ単純に絶対的に神に依り頼む信仰なのです。

イエスは、神の国の受けいれ方が幼子のようにでなければ、決してそこにはいれないと言われました。それは神の国を自分への贈り物として、ただ喜んで受け取ることです。子どもは贈り物をそのまま喜んで受け取り、別にお返しなどを考えません。何かすばらしいことをしたので、もらうに値するとか、そのご褒美として贈り物をいただくとか、考えないのです。それは信仰と主の恵みによるのです。

### 結論

幼子たちが彼らの両親に全く信頼しているように、天の父である神に対して全く信頼する者が、神の支配にいられ、神の国の民となるのです。

## 研究資料

(小平徳行)

この箇所は、親が幼子を積極的にイエスに導くべきことを教える象徴的な出来事が記されている。また、代々の教会の児童教育への方向づけをも与えてきた。教会は、神の祝福を子どもたちに積極的に与える使命がある。しかし、この出来事は大人に対して、神の国に入るためになくしてはならない態度を教えるためのものである。

## テキスト

**13 さわっていただく** マタイ19・13では「手をおいて祈っていたために」とあり、イエスに祝福の祈りをしてもらうためであった(16節)。ユダヤ社会では、子どもたちをラビや長老のところに連れて行き、神の祝福を祈ってもらうことはよく行われていた。当時、幼子の死亡率は高く、16歳になる前に10人に6人は死んでしまったようである。悪から守られるようにと、イエスに祈ってもらうと幼子を連れてきたのだろう。**幼な子ら** マルコとマタイでは(キ)バイティオン、ルカでは(キ)ブレフォスが使われている。前者は4、5歳ぐらいの子どもの指すが、後者は、乳児など、より小さな子どもを指す。ルカ18・16

17では、前者も用いられており、両者を同義語と考えている。もしくは、その場には様々な年齢の幼子たちがいたのかもしれない。**弟子たちは彼らをたしなめた**「たしなめる」(キ)エピテマオー」は怒りの感情を伴う強い非難を表わす。イエスが忙しかつたので、わずらわせないようにという配慮だったのかもしれないが、幼子を重要な存在と見ていなかったことは確かである。

**14 イエスは憤り** 「憤る」(キ)アガナクテオー」は深い感情を表す強い言葉で、マタイやルカの並行箇所にはなく、マルコだけがこのことを記している。イエスが憤られたのは、福音書ではここだけである。弟子たちは以前にも、幼子が神の国において特別な存在であることをイエスから教えられていたが(9・37)、それを何一つ理解していなかった。イエスは、ご自身を信じる小さい者をつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海に投げ込まれたほうがよいと言われた(9・42)。「小さい者」とは社会的地位の低い、取るに足りない者のことであるが、ここに幼子も含まれる。このような者をつまずかせることは、非常に厳しい神のさばきに値するのだから、イエスの憤りは当然である。**止めてはならない**「止

める」(ギ)コーリユオー」は「妨げる」「禁じる」などの意味がある。弟子たちは、幼子がイエスの所に来ることを妨害したのである。

**15 よく聞いておくがよい** イエスは十字架にかかり、救いのわざを完成させる時が近づいていることを意識され、厳肅に、神の国に入るのはどのような者であるかを語られた。**幼な子のように神の国を受けいれる者** 幼子のようにであるとはどういうことだろうか。幼子は純真無垢(じゆんしゆんく)で罪がないということではない。また、子どもじみていること(childish)と子どものようであること(childlike)は区別すべきであり、信仰にとつては後者が重要である。幼子のようにとは、根本的には、弱く、無きに等しい者であり、自分には全く功績や、誇るべきものがないことを意味していると言える。そこから単純さ、つまり素直に神の言葉を聞いて受け入れる、神に絶対的に信頼するということがでてくる。特にここで強調されているのは、受け入れることである。「受け入れる」(ギ)デコマイ)は「与えられたものを手で受け取る」という意味である。つまり、自分で獲得するというよりも、差し出されたものを素直に受け取るという意味合いがある。幼子が贈り物を当然のように受け取るように、神の国を受け入れる者が天国に入ることができるのである。

**決してできない** これが神の国に入る唯一の道であることを示している。幼子のようになることが、よりよいことというのではなく、これ以外に道はないということである。信じるとは、幼子のように受け入れることである。

**16 彼らを抱き** 抱く(ギ)エナグカレゾマイ)は「腕の中に抱く」という意味合いがある。これは、牧者がその腕に小羊をいだき、携え行き、導かれる(イザヤ40・11)ことを思わせる。そしてそれは「永遠の腕」(申命記33・27)である。**祝福された** これは(ギ)カタ「上から」と(ギ)エウレゴ「祝福する」が組み合わされている。つまり、祭司や家長がしたような間接的なものでなく、神からの直接の祝福である。そして、「祝福する」は語源からすると「よいことを話す」という意味である。イエスは、神の豊かなご愛、恩恵、賜物をもって幼子を祝福された。イエスは祝福に満ち溢れたお方である(ローマ15・29)。

参考図書 10月2日分と同じ

聖書 マルコの福音書10・13～16

タイトル 素直な心で

暗唱聖句

だれでも幼な子のように神の国を受け  
いれる者でなければ、そこにはいるこ  
とは決してできない。マルコ10・15  
幼子のような素直な信仰で信じる者と  
なる。

目標

導入

(飯田勝彦)

「ここは、子どもが来るところではないから、あつちに行つていなさい！」と大人から言われたことがありますか。時々、皆さんのような小さな子どもが大人から邪魔者じまものあつかいされることがあります。

でも、イエス様は違います。イエス様は、子どもが大好きでいつも受け入れてくださるお方です。イエス様から素晴らしい祝福をいただきましょう。

イエス様の所に連れて来られた幼子

皆さんは、お父さんやお母さんから「ねえ、ゾウさんを見に動物園に行かない？」とか「今度、遊園地に遊びに行

こうよ」と誘われて出かけたことがあるでしょう。

今日の箇所には、大人たちが子どもたちを誘って、イエス様の所に連れてきたことが記されてあります。それは、イエス様にさわっていただくためでした。どうして大人たちは、子どもたちをイエス様にさわっていただくと思つたのでしょうか。それはイエス様に祝福を祈っていたためでした。ですから、大人たちは自分の子どもや近所の子どもたちに「イエス様に祈ってもらおう！」と声をかけて子どもたちを連れて来たのです。

今朝、皆さんは誰かに誘われて教会に来ましたか？ なかにはお父さんやお母さんから「教会行くから、早く準備して！」なんて言われ、「教会か」とししぶる来た人もいるでしょうか。でも、お父さんやお母さんは、皆さんがイエス様の祝福を受けて欲しいと思つて教会に連れてきてくださるのです。ぜひ、その事を知っておいてください。

また、ひとりで教会に来ている人であっても、背後には天の父なる神様が働いてくださり、イエス様からの祝福を受けるように導いてくださっているのです。ですから、私たちは、今日ここに自分できたのではなく、イエス様の祝福を受けるために連れてこられたのです。

10月

9日

礼拝メッセージ例

## イエス様に喜ばれる幼子

イエス様の所には、多くの子どもたちが連れてこられました。この光景を想像するだけで何だか楽しくなる雰囲気ですね。

でも、それを良く思わない人たちがいたのです。それは弟子たちでした。彼らは子どもを連れてきた大人たちに、「ここに子どもを連れて来てはいけません。早く帰しなさい」と、大人たちをしかつたのです。弟子たちの叱る声を聞いて、子どもの中には泣き出す子もいたでしょう。また、大人たちは弟子の態度に納得がいかなかったでしょう。

その時、イエス様は怒って弟子たちに「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である」と言われました。イエス様は、弟子たちのように子どもを歓迎しない方ではなく、喜んで招いてくださる方なのです。

今も、イエス様は、ご自分の所に集まってくる皆さんを見て喜んでおられます。イエス様は、どうして皆さんのような子どもを喜ばれるのでしょうか。それは、子どもの心は素直だからです。

皆さんは、素直にイエス様を救い主として信じているで

しょう。そして、必ず天国へ行けることも信じているでしょう。イエス様は、それを一番喜ばれるのです。

## イエス様から祝福を受ける幼子

イエス様は、素直な子どもたちを自分のもとに引きよせ抱かれました。そして、彼らの頭に手をおいて祝福のお祈りをされたのです。子どもたちは、イエス様の優しさや温かさを肌で感じ、イエス様から来る大きな祝福を、イエス様から直接受けることができました。子どもたちの顔は、祝福に満たされて輝いていたことでしょう。

## まとめ

私たちも、イエス様に喜ばれる者にされて祝福を受けたいですね。イエス様は、素直にイエス様を信じ、天国に希望をもつて歩んで行く人を喜ばれます。そして、そのような人を素晴らしい祝福で満たしてくださるのです。イエス様を素直な心で信じましょう。

♪子どもの友は♪

(ホーリネス子どもさんびか 7)



## 聖書 マルコ10・35〜45

## テーマ 仕える生き方を身につける

## 序論

(山田和幸)

イエスが三度目の十字架予告をされた直後、ヤコブとヨハネが願いました。わざわざ母親同伴だったようです(マタイ20・20)。イエスが栄光の座に就かれるときには、右大臣席と左大臣席に就きたいのです。イエスの十字架の意味を悟り、自分の使命を自覚するべき大事な時だとは気づいていません。神の国での自分の地位だけを求めている弟子たちでした。

## 一、弟子たちの願っていたこと

ヤコブとヨハネは、神の国で他の弟子たちより高い地位に就きたいと願いました。そして、それを聞いて憤慨した他の十人も、同じようなことを願っていました。十二弟子の全員が、お互いに妬みや競争心を持ち、互いを蹴落とし、でも高い地位に就きたいと望んでいたのです。

もちろん、弟子たちに信仰がなかったわけではありませんが、神を信じ、イエスを救い主と信じて従ってきたのです。

しかし、彼らにとつては、神の御旨の成就が一番ではなく、自分たちの将来の地位の方が重要だったのです。三年以上もイエスと寝食を共にしてきても、十字架を目指すイエスを理解できなかった理由はそこにあるのです。

人が何を願うのが、その人の生き方を決めていきます。神の御心に従って願うのか、自分の欲で願うのかは、その人の品性にも影響していきます。

## 二、弟子たちの目指すべきこと

〈偉くなりたいと思う者は〉と語られたイエスは、偉くならうと志すこと自体を否定されたとは、言えません。ただ、神の国のリーダーの条件は、地上とは違うことを示されたのです。人に仕える者であることが大切であることを、教えられました。

実は、以前にも同じようなことがありました。二度目の十字架予告の時も、弟子たちは誰が一番偉いかと論じ合っていたのです。その時イエスは、神の国で重んじられる人について教えました(9・33〜37)。ところが、肉に生きている弟子たちは、なかなか悟ることができません。ここで再び、神の国における真のリーダーの姿を、徹底的

10月

# 16日 聖書講解

に教えなければならなかったのです。

ヨセフ、モーセ、ヨシユア、ダビデなど、神が人を指導者として立てられる前には、その人をまず、しもべとして歩ませられました。そして、イエスこそ最も顕著な例として、栄光の座に就く前には、十字架への道を従い通されたのです。

これから弟子たちは、イエスがしもべとしての生涯を全うされる姿を見なければなりません。そして、そのキリストにならつて人のしもべとなつていくことこそが、弟子たちの目指すべきことだったのです。

## 三、弟子たちに備えられた道

イエスが飲む杯、イエスが受けるバプテスマを受けることができるか答えた弟子たちですが、もちろん、その意味を理解していたわけではありません。十字架に向かつているイエスにならつて、自らも十字架の道を進む覚悟を決めているのではありません。しかし、後に十二弟子のほとんどは殉教することになるのです。ヤコブも、殉教の死を遂げ（使徒12・2）、ヨハネはパトモスに流刑にされました（黙1・9）。

神の計画に逆らつて、人間が自分の肉の計画を押し通そうとすることほど空しいことはありません。そして、

神は、私たち一人一人にも素晴らしい計画を用意して下さっています。平安・将来・希望などの祝福こそが神の計画です（エレミヤ29・11）。しもべとしての道は、困難の多い狭い道に見えるかもしれませんが。また、滅びに至る広い道は、「肉の欲、目の欲、持ち物の誇」（ヨハネ2・16）りを満たす魅力的な道に見えるでしょう。しかし、それが悪魔の策略なのです。

## 結論

神の国が地上と同じ原理であること、自分たちの願う制度であることを期待するのは愚かなことです。ところが、多くの人は自分に都合の良い基準で、神の国に入れると誤解しています。しかし、イエスの語られたこと、聖書に記されたことに従う以外に、本当の神の国に入ることはできません。

イエスが語られたように、仕える生き方をする者こそ、神は重んじてくださるのです。私たちも、神と人にと仕えることを目指していきましょう。



## 研究資料

(小平徳行)

イエスが、ご自分の十字架による死と復活について話された直後の出来事である。最初に予告された時には、ペテロがイエスをいさめ(8・32)、次は、後に弟子たちは誰が一番偉いかと論じ合い(9・34)、今回も自分たちの地位のこともめることになった。弟子たちは、イエスの十字架の真の意味については、まだ目が閉ざされていた。

## テキスト

**35 ヤコブとヨハネとが** イエスはペテロ、ヤコブ、ヨハネを特に訓練された。ペテロはいつも弟子の代表であるかのように振舞っていたため、ヤコブとヨハネはそれを快く思わず、自分たちの地位を確かなものとしたかったのかもしれない。

**37 右…左** 右が王座の次に高い位であり、左は右に次ぐ高位の座であった。彼らがこのことを求めたのは、イエスが将来、御国において弟子たちが十二の位に座すと約束されたことに基づくものであったかもしれないが(マタイ19・28)、一般的な約束だけでは満足できず、他の弟子たちより高い地位を願ったのであろう。

**38 あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていない** 弟子たちが神の国の本質を理解していなかったため、その地位の意味するところを知らずに求めている。

**わたしが飲む杯** これはイエスが経験される十字架の苦しみを指す(14・36)。旧約聖書で「杯」とは罪に対する神の怒りによる苦悩を指している(イザヤ51・17、22、エレミヤ25・17、28など)。**わたしが受けるバプテスマ** これもイエスの十字架による死を表している(ルカ12・50参照)。

**39 彼らは「できません」と答えた** これはイエスの言葉に反射的に応答したもので、将来直面する事態を十分に考慮したものではない。後に十二弟子はすべて、イエスを裏切らないと言いながら、結局逃げてしまった。しかし、イエスが彼らの答えを全面的に否定されなかったのは、やがて彼らの歩む道を知っておられたからであろう。実際ヤコブは、後に殉教の死を遂げ(使徒12・2)、ヨハネはパトモス島に流刑にされた(黙1・9)。

**40 わたしのすることではなく** クリスチャンへの報いはイエスの権限ではない。マタイ20・23には、それが父なる神に属することが明記されている。イエスは常に、ご自分を神の使命を果たすためのしもべの位置に置かれている。

10月

# 16日 研究資料

**備えられている人々** 完了形で書かれており、人がある立場に置かれるのは、神があらかじめ計画され、その計画に基づいてなされることであり、他の誰かが口出しできるようなことではない。

**41 十人の者は…憤慨し出した** 彼らもヤコブやヨハネ同様、自分の榮譽を求めており、靈的に浅薄であることが明らかにされた。イエスは以前、だれが一番偉いかと論じ合っていた弟子たちに、神の国において重んじられるのは、どういう人であるかを教えられたが（9・33〜37）、再び弟子たちに神の国における真のリーダーの姿を徹底的に教えなければならなかった。この時弟子たちの心には、ねたみや党派心があり、肉による、地につく知恵によって歩んでいた。しかしペンテコステ以降の弟子たちの間には、このような競争心は見られない。聖霊による上よりの知恵によって歩んでいたためである（ヤコブ3・14〜18）。

**43 偉くなりたいと思う者は** イエスは偉くなろうと志すこと自体を否定されたのではなかったが、神の国のリーダーに求められるのは、みなに仕える者になることであることを教えられた。**仕える人**（（邦）ディアコノス） 主人とその家族のために食卓で給仕するという言葉からきている。

**44 かしらになりたい** 直訳すれば「第一になりたい」で、「偉くなる」より強い内容をもつ。**しもべ**（（邦）ドウロス）も「仕える人」より強く、「奴隷」と訳されるべき言葉である。ここでイエスは前節の教えをさらに強調されたのである。ヨセフ、モーセ、ヨシユア、ダビデなどの人物に共通するのは、神が人を指導者として立てる前には、その人をまず、しもべとして歩ませたことである。これはイエスにおいて最も顕著であった。

**45 人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり** キリストの生き方はヤコブやヨハネの利己主義とは対照的であり、自己放棄の顕著な実例である。キリストはご自分の正当な地位さえ拒絶された（ピリピ2・6）。**多くの人のあがないとして** 「あがない」（（邦）リユトウロ）は、捕虜や奴隷を買い取って解放してあげるための代価を意味する言葉として使われた。「多くの人の」（（邦）アンテイ）は「の代わりに」という意味の言葉で、身代わりということが強調されている。仕えることの極限の姿は十字架において最高潮に達した。

**参考図書** 10月2日分の他、Warren,W.Wiersbe“BE DILI-GHT-NT COMMENTARY MARK,”(David C. Cook)

聖書 マルコの福音書10・35～45

タイトル イエス様の願い

暗唱聖句

あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、すべての人の僕とならねばならない。  
マルコ10・44

目標 仕える生き方を身につける。

## 導入

(飯田勝彦)

皆さんに二つの質問をします。一つ目は、「あなたは、将来どんな人になりたいと思っていますか？」です。いろいろとあると思います。二つ目の質問は、「どうしてそのような人になりたいと思いますか？」です。少し考えてみてください。

今朝の箇所ではイエス様は、これからの皆さんの生活にとっても大切なことを話されています。

## 弟子たちの願い

ある時、多くの人たちがイエス様と共にエルサレムに向かっていました。その途中、ずっとイエス様が弟子たちの先頭に立って進んで行かれました。その時のイエス様の表情が、いつもと違ったのでしょうか。それに気づいた弟

子たちは、驚き恐れたのです。イエス様は、十二弟子を集めてお話しをされました。それは、ご自分がこれからエルサレムで、祭司長や律法学者に引き渡され死刑の宣告を受けること、そして、異邦人によって苦しめられて殺され、三日目に復活することでした。

皆さんが弟子たちなら、辛い気持ちになるのではないでしょう。でも、弟子たちは違いました。

イエス様のお話のあと、ヤコブとヨハネがイエス様のところに近づいて来ました。そして「イエス様、私たちはあなたが殺されるなんて耐えられせん。エルサレムへ行ったら私たちがあなたを守ります」とイエス様をいたわるようなことを言ったのでしょうか。そうではありませんでした。彼らは、「先生、私たちの願いを聞いてください。あなたが、栄光を受けられた時には、ひとりをあなたの右に、もうひとりを左に座するようにしてください」と言ったのです。イエス様が殺されようとしている時に、この二人は誰のことを考えていたのでしょうか。イエス様のことでしょうか。それとも、自分たちのことでしょうか。この二人の弟子は、自分たちが少しでも高い位につき、偉い人になることを願っていたのです。すると、他の十人

10月

## 16日 礼拝メッセージ例

の弟子たちはこれを聞いて、たいへん腹を立ててしまいました。二人の弟子たちに先を越されたと思ったのでしょう。ということは、十人の弟子たちの思いも同じだったということです。

彼らは、これから殺されようとしているイエス様のことを考えるのではなく、自分たちが得をすることだけを考え、願っていたのです。

## イエス様の願い

皆さんには、将来の夢があるでしょう。「偉い人になりたい、有名な人になりたい。お金をいっぱい儲ける人になりたい」などです。このように願うことは、決して悪いことではありません。でも、どうしてそのような人になりたいかという心を、イエス様は見られるのです。「偉い人や有名な人、お金をいっぱい儲ける人になって、贅<sup>ぜいたく</sup>沢な生活をしたから。みんなからチャホヤされたから。沢山の人を自分の思う通りにさせたいから」という思いは、弟子たちと同じで、自分のことしか考えていないことになります。

イエス様は、弟子たちに「偉くなりたいと思う者は、仕える人になり、かしらになりたいと思う人は、すべての人

の僕とならなければならない」と言われたのです。これは弟子たちが考えていたことは、まるで反対のことでした。

本当の偉い人は、人を支配し権力をふるう人ではありません。それは、仕える人であり、すべての人の僕となっていく人なのです。偉い人や支配者になろうとする人は、人の上に立とうとします。でも、本当の偉い人は、人の下にしようとしします。仕える人や僕とは、いつも人のことを思い、人の喜びを自分の喜び、また悲しみを自分の悲しみとしていく人です。本当の偉い人は、人を苦しめることはしません。逆に人に喜ばれることを実践する人なのです。

イエス様は、私たちを喜びの人生に導くために、ご自分の命を捨ててまで私たちに仕え、僕となってくださいました。

## まとめ

イエス様を信じる人こそが、心から人に仕えることができます。イエス様は、皆さんに仕える人になって欲しいと願っておられるのです。

♪あいをください♪(ホーリネス子どもさんびか 78)



聖書 マルコ10・46〜52

テーマ 切なる信仰をもって  
祈り求める者となる

序論

(山田和幸)

イエスが十字架を目指してエルサレムに向かっている、緊張感の漂う時でした。しかし、ヤコブとヨハネが母親と一緒に、右大臣と左大臣を望んで、逆に、イエスに「仕える者」となるように諭されたように、弟子たちはまだまだ不信仰でした。

その頃、エリコの町で、バルテマイと呼ばれていた目の不自由な人が、イエスに目を開けてもらおうという奇跡を経験しました。ルカによる福音書では、この出来事を、イエスがエリコに近付いて行った時のことと記録しています。つまり、バルテマイとイエス一行の出会いには二度あり、最初の時には群衆にさえぎられたが、最後の機会には、さらに懸命に求めて癒しの恵みに与ったということでしょう。

## 一、バルテマイの境遇

生まれつき目が見えなかったバルテマイには、これまで多くの不自由さがあつたことでしょう。家族にも負担がかつたでしょうし、治療にお金を使つたかもしれない。しかも、律法の規定から、神殿での礼拝の恵みに与えることもできませんでした。そして、この時には道端に座つて物乞いをして暮らすようになってしまつていたのです。

そんなバルテマイにイエスのうわさが聞こえてきました。この方こそ約束のメシヤかも知れない。メシヤであるならば、自分の目を開き、救ってくれるに違いないと期待したのです。

多くの人は、自分の境遇につぶやき、自分の罪の言い訳にします。そこから立ち直れず、神を求めることもできません。バルテマイが、自分の置かれた境遇にもかかわらず、イエスを熱心に求めたことは素晴らしいことです。

## 二、バルテマイの信仰

バルテマイが「ダビデの子」と呼びかけたのは驚くべきことです。それはメシヤの称号で、人々は「ナザレのイエス」と呼んでいたからです。また、「あわれんでください」という言葉も、彼の信仰の表れです。何ものにも値しない

10月

23日

## 聖書講解

### 三、バルテマイの得たもの

バルテマイは救い主イエスに、信仰告白をするように導かれ、「あなたの信仰があなたを救った」と、その信仰を認められました。なんと幸いなことでしょう。そして、こ

欠けだらけのわが身に対する、メシヤの一方的なあわれみによって救われるという信仰です。イエスこそ約束のメシヤだと確信していました。盲目ではありませんが、彼はイエスの神髄を正しく見抜いていたのです。

だからこそ彼は、人々にさえぎられてもひるみませんでした。そして、イエスが呼んでくださると躍り上がって喜びます。イエスが何をして欲しいかたずねられると、「見えるようになることです」とメシヤの御業を期待しました。弟子たちの不信仰とは対照的に、この箇所にはバルテマイの信仰が、鮮やかに描かれています。

キリストに何をして欲しいのか、それこそキリストを信じているというその人の信仰の真偽を明らかにします。旧約聖書に預言されている通り、メシヤは盲目の者の目を開くという期待を言い表したバルテマイは、本物の信仰者でした。

の後イエス一行について行ったバルテマイは、開かれて間もなくのその目で、十字架を見ることになるのです。

〈テマイの子、バルテマイ〉とその名が記されているのは、その後キリスト教会の中で、彼が主の証人として名を残していったからだと考えられます。

全財産である上着を捨てた彼が得たものは、キリストの証人としての道でした。早くに殉教したかどうかはわかりません。でも、イエスに目を開かれた者として、彼がキリスト者としての道を歩んだことは、疑う余地がありません。

### 結論

私たちも、イエスこそ真の救い主と信じて切に求める祈りをささげましょう。

イエスは、私たちにも「わたしに何をしてほしいのか」と、聞いて下さいます。「あなたは何を信じているのか」と問うて下さるのです。「私は、何の値打ちもありません。ただ、あわれんで下さい。私をつくりかえてください」と、謙遜・素直に祈って、イエスの歩まれた道に従っていきましよう。キリストの弟子としての新しい人生が開かれていきます。

## 研究資料

(小平徳行)

この出来事は本福音書において最後のいやしの奇跡である。苦難のしもべとして、イエスは十字架への道の途中であつたが、目の不自由な物乞いに仕えるために足を止められた。ここにイエスの大いなる愛、あわれみ、そして恵みを見る(マタイ20・34)。

## テキスト

**46 バルテマイ** アラム語で「テマイの子」という意味である。物乞いの名はマルコにしか記されていない。またマタイの並行箇所では2名となっている。彼は目が不自由であつたため、貧しさだけでなく、神殿における礼拝からも排除されていた。

**47 ナザレのイエスだと聞いて** バルテマイはイエスを目で見ることができなかったが、耳は必然的に敏感であつた。**ダビデの子** メシヤを指す称号である。メシヤはダビデの子孫であるべきだという信仰がユダヤ人にあつた。そして目の不自由な人の目が開かれることは、メシヤの到来のしるしであつた(イザヤ29・18、35・5、ルカ7・22)。

バルテマイは一般の人々が「ナザレのイエス」と呼んでいたのに対し、「ダビデの子」と呼んだ。人のうわさにしか聞いていなかったイエスに対して、全幅の信頼を持つてすがつたのである。ここに彼の信仰を見ることができ。自分たちの地位を求めた弟子たちは霊的に目が見えていなかったが、バルテマイは霊的に目が開かれていた。**48 彼をしかって黙らせようとした** 13節と同様に、これ以上イエスをわずらわせないようにという配慮であろう。**ますます激しく叫びつづけた** イエスならばいやすことができると思つて信じていたからこそ、彼は周囲の圧力にもかかわらず叫び続けた。バルテマイはこの機会を決して失つてはならないと熱心に求めたのである。イエスはこの後二度とエリコに戻ることはなかった。天国は激しく襲う者たちが奪い取るのである(マタイ11・12)。

**49 イエスは立ちどまって、「彼を呼べ」と命じられた** 弟子たちの配慮に反して、イエスはバルテマイを呼び寄せた。イエスはあわれみを求める者に対して、あわれみをもつて答える。ここにも仕える者としてのイエスの姿を見ることができ。**喜べ**(サルセイ) 新改訳では「心配しないでよい」、新共同訳では「安心しなさい」。

**50 上着を脱ぎ捨て、踊りあがって** 盲人の喜びが非常に

生き生きと表現されており、目撃者の証言に基づく記録であることを思わせる。イエスの招きに応じるとき、人はしばしば喜びにあふれて大胆に振る舞う。例えば、シモンとアンデレは網を捨て（1・18）、ヤコブとヨハネは舟をおき（1・20）、レビは収税所をあとにした（2・14）。イエスに招かれることは何と幸いなことだろうか。**上着**これは自分の前に敷いて施し物を集めるために用いられたようである。おそらく彼にとつてこの世における唯一の持ち物であった。その上着を脱ぎ捨ててイエスのもとに来たことは、急いでイエスのもとに行くためには邪魔であり、つまずかないためであった。または、イエスのもとに行くならば、盲目であったときの生活手段はもはや不要となることを思わせる。

**51 わたしに何をしてほしいのか** イエスは、バルテマイの願いを知っていたが、具体的に言わせることで、彼の信仰（自分のためにイエスは何をすることができると信じているのか）を明確にする意図があった。また、このように問うことができるのは、求められたことを行う力のある者だけである。**先生**（<sup>ラビ</sup>）で用いられているのは「ラ

ボニ」いうアラム語）これは「私の敬愛する先生（ラビ）」、「わが主」という意味であり、ただ「ラビ」と言う以上に敬意が込められている呼びかけである（ヨハネ20・16）。これは先の「ダビデの子」に対して、彼の主観的な信仰の表現と言える。

**52** ここではイエスは何もされていないように書かれているが、マタイ20・34では盲人の目にさわり、ルカ18・42では「見えるようになれ」と命じている。**あなたの信仰があなたを救った** バルテマイの信仰は、人々から制止されても執拗（<sup>しつこく</sup>）に求めたところに証明された。**イエスに従って行った**「従う」（<sup>ギ</sup>アコルーセオー）は、イエスの一行についていくという意味にも、弟子になるという意味にも解釈できる。この時以来、イエスの弟子となったかどうかかわからないが、一行と共に神殿に入り、礼拝をささげることができるようになった。このバルテマイの姿は、信仰とはイエスの言葉を信じ、イエスに従って生きることであることを教えている。

**参考図書** 10月2日分の他、David E. Garland “Zondervan Illustrated Bible Backgrounds Commentary,” (ZONDERVAN)



聖書 マルコの福音書10・46〜52

タイトル 信じて祈ろう！

暗唱聖句 行け、あなたの信仰があなたを救った。

マルコ10・52

目標 切なる信仰をもって祈り求める者となる。

導入

(飯田勝彦)

おもちゃ売り場で小さい子が「ねえ、おもちゃを買って〜！  
買って〜！買って〜！くれるまで帰らない〜！」と泣き叫び  
ながら、おもちゃをねだっている姿を見たことあるでしょ  
う。もしかしたら、皆さんも経験があるかも知れませんね。  
皆さんは、この子どものように真剣にイエス様に求めた  
ことがあるでしょうか。

### 叫び祈るバルテマイ

ある時、イエス様が大勢の人たちとエリコの町から出か  
けられた時、バルテマイという人が道ばたに座っていました  
た。彼は、目が不自由だったので、働くこともできず、物  
乞いをして生活をしていました。

彼は恐らく毎日、道ばたに座って物乞いをしていたでし  
ょう。当時の道は、今のように入スファルトで舗装されて

いないので、馬や人が通るときや、風が吹いた時などは砂  
ぼこりがまっけていました。ですから、バルテマイは毎日、  
砂ぼこりにまみれながら道ばたに座っていたと思います。  
彼にとつての仕事は物乞いで、仕事場は道ばたでした。彼  
は人生のどん底で生活をしていたのです。

もし、皆さんがバルテマイのように、目が見えず、働く  
こともできず、毎日砂ぼこりをかぶりながら、物乞いをして  
いるなら、どんな気持ちになりますか。「こんな生活な  
んで嫌だ！ 助けて欲しい！」と思うに違いありません。  
バルテマイもそうでした。

バルテマイは、イエス様が来られることを聞きました。  
すると彼は突然、イエス様に向かって「ダビデの子よ、わ  
たしを憐れんでください！」と叫びだしたのです。「ダビデ  
の子」とは、「救い主」を示すことばです。ですからバル  
テマイは、イエス様が救い主であることを信じて、助け  
を求めたのです。

しかし、イエス様の周りにいた人たちは、バルテマイを  
叱りつけ黙らせようとしました。でも、彼は黙るところか  
ら、前よりもっと大きな声で「ダビデの子よ、わたしを憐  
んでください！」と力を振りしぼってイエス様に叫び続け

10月

23日

# 礼拝メッセージ例

たのです。

皆さんは、バルテマイのような叫び求める祈りをしたことがありますか？

## 祈りが聞かれたバルテマイ

先々週の話の中で、イエス様のもとに来ようとした子どもたちを弟子たちはどうしたでしょうか。彼らは、子どもたちがイエス様に近づかないようにたしなめました。今日の箇所も、それと似ています。イエス様を求めているバルテマイに対して、人々は怒ったのです。

では、イエス様はどうされたでしょうか。イエス様も人々と同じように「うるさい！ 静かにしなさい！」とバルテマイを叱られたでしょうか。それとも、彼を無視して行かれたでしょうか。そうではありませんでした。イエス様は、バルテマイの叫びを聞き、立ち止まって彼をご自分のもとに呼ばれたのです。バルテマイは、本当に嬉しかったでしょう。上着を脱ぎ捨て、躍り上がってイエス様のもとにきたのです。イエス様は、ご自分に近づく人を決して拒むことはしません。逆に喜ばれるのです。イエス様は、喜んで近づいて来たバルテマイに、「わたしに何をしてほしいのか」と尋ねられました。その時彼は、「あのお…、えつとお…」と同じもじすることはありませ

んでした。「先生、見えるようになることです！」とハッキリと答えたのです。

イエス様は、皆さんの心にある祈りと願いをすでに知っておられます。でも、皆さんの口からハッキリとその祈りを聞きたいと願っておられるのです。ですから、イエス様に近づいて祈る時、具体的に声を出して祈りましょう。

イエス様は、バルテマイに「行け、あなたの信仰があなたを救った」と言われました。すると、彼の目は見えるようになったのです。バルテマイは「イエス様なら自分の目を見るようにしてくださいに違いない」と信じていました。イエス様は、その信仰を見て目を癒してくださったのです。

癒されたバルテマイは、どん底の生活からも救われ、イエス様に従うすばらしい人生へ変えられました。

## まとめ

皆さんもバルテマイのようにイエス様を信じているでしょう。応えてくださるイエス様に期待して、心から祈りましょう。信じて祈る人に、イエス様はすばらしい人生を与えてくださいます。

♪ 祈ってごらんよわかるから♪ (新聖歌 481)



## 聖書 ヨハネ8・15-12

## テーマ 世の光キリスト

## 序論

(高橋頼男)

キリストは、(わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであらう)と言われました。この言葉がイエスの口から語られた時、その背景となった一つの出来事がありました。

人々が姦淫(かんいん)の場での現行犯として、一人の女をイエスの前に引き連れてきました。そしてイエスに、この憎むべき恥ずかしい罪を犯した女の裁きをどうするか、と訴えたのです。しかし、これは彼らが仕組んだ巧妙な罠(わな)だったのです。問いつける彼らに背を向けてしゃがみ込み、沈黙を守っておられたイエスが、やおら立ち上がって言われた短い言葉は、驚嘆すべき言葉でした。それは、すべての人の心の闇を照らす光でした。

## 一、闇のなかを歩いている人々(3-6)

## ①罪を犯す者の闇

女は姦淫(あは)の現行犯で捕えられました。隠れて行っていた罪が暴かれた時の恥ずかしさと恐ろしさは、どれほどだった

たでしょう。彼女はどのような女性で、どのような事情があったかわかりませんが、隠れた肉欲の奴隷になり下がっていました。

人の見ていない所、人の目の届かない暗闇で行う罪の行為は、常に暗さ、惨めさが伴います(エペソ5・12)。しかも、人が隠れてすることは、神の目にはみな明らかであり、さばきの日にはその全てが神の御目の前で暴かれ、さらされるのです。(ローマ14・10)

## ②自分を罪なしとして他人を裁く者の闇

女を捕えてさばきの場に引き立てて来た人々は、女を用いてイエスを罠に掛けるため、恥ずかしい姿のままの女を公衆の面前に引き出しました。女が死の恐れ(姦淫の罪はユダヤの律法によれば死刑に相当)と辱め(はずむ)のなかで身を堅くしているのに、彼らには何の躊躇(ちゅうちゆ)もありません。人を批判し断罪する冷たい態度、人を人として扱わず、物として扱い、イエスを罠にかけられる材料として用いたのです。隠れた肉欲の奴隷となった心も、他人の罪を利用して人を罠に掛けようとする非情な心も、みな闇の中にあります。

## 二、光であるキリストとの出会い(7-11)

人々は、「この女をどうするのか」と、イエスに問いつける

10月

30日

## 聖書講解

ました。イエスは、彼らに背を向けて黙ってしやがみ込み、地面に何か書いておられました。しばらくして、問い続ける彼らに向かつて、立ち上がられ、ひとこと、「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい」と言われたのです。そしてまた、下を向いてしまわれました。

このイエスの言葉は「光」でした。人の悪を指摘し、得意になって他人をさばっている人たちの心の闇を、さっと照らし出したのです。この言葉によつて、彼らは自分自身を問われ、女に向けていた指を今度は自分に向けざるを得ませんでした。うろたえあわてますが、やがて「彼らは年寄から始めて、ひとりびひとり出て行き」ました。そして、ついにみんなその場を去つてしまい、イエスおひとりだけになりました。しかし、女はその場にそのまま残ったのです。責め立てる者がみな去つた後、女はその場から逃げ去ることができました。キリストは女に言われました。「わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように」。こう言われたイエスは、この女のために十字架にその罪を負われました。

### 三、キリストに従い、光の中を歩む(12)

私たちの生活の中に、この女のようなひそかな隠れた闇

はないでしょうか。主は心の中まで明らかにされます(マタイ5・28)。この律法学者、パリサイ人のような、自分は正しい、自分は罪がないという高慢な姿、他者に対する非情で冷酷な態度はないでしょうか。彼らは、自分の闇を指摘された時、光であるイエスのもとから、みな逃げ去りました。そうであつてはいけません。この姦淫の女のように、キリストの御前に身を投げ出すべきです。光に留まり、光の中に罪ある恥ずかしい姿を投げだし、光の中でキリストの赦しときよめをいただくのです。「明らかにされたものは皆、光となるのである」(エペソ5・14)。

イエスは、あらためて人々に語つて言われました。「わたしは世の光である。わたしに従つて来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであらう」。光とされた者は、もはや闇の中を歩んではいけません。むしろ、光の中を歩み続けるのです。「あなたがたは、以前はやみであつたが、今は主にあつて光となつてゐる。光の子らしく歩きなさい」(エペソ5・8)。

### 結論

光であるキリストの救いをいただき、すべての闇の業を捨て、光の中を、光に従つていきましょう。

## 研究資料

(中島啓二)

7・53〜8・11は「」でくくられている。その理由は有力な古い写本の多くがこの箇所を含んでいないからである。教会の中で語り継がれてきたエピソードが、いつしか聖書本文に組み込まれるに至ったのであろう。決して、史実性が不確かだという意味での「」ではなく(その点に疑問を抱く学者はほとんどいない)、聖書の中で本来置かれるべき位置が不確かだという意味での「」だと言える。実際、この記事をルカ21・38の後に置く写本もある(その文体と用語はむしろルカに近いという指摘もある)。今日、この記事がヨハネのこの位置に置かれている主な理由は、すぐ後の「わたしはだれもさばかない」(15)という主の言葉とうまく呼応している点にある。この「」部分は、本来置かれるべき文脈がここであるかどうかは不確かだが、神の導きによって聖書の中に保存されるに至った史実であることは確かであると理解して読むのが適切であろう。

## テキスト

5 モーセは律法の中で、「こういう女を石で打ち殺せと命じました(申命記22・22以下に、夫のある女が他の男と

通じたときは両者に死刑(石打ち刑とは書かれていないが)を、また婚約している処女が他の男と通じたならば、両者を石打ち刑に処すべきことが定められている(ただし強姦の場合、女が助けを叫べば、女に死刑は適用されない)。実際には当時、少なくとも都市部ではそれほど厳格に適用されていなかったと見る向きもあるが、律法の記述自体にあいまいな点はない。

## 6 イエスをだめして、訴える口実を得るためであった

パリサイ人は、イエスがいずれの答を出しても、窮地に陥るようにとわなを張っていた。すなわちイエスが石打ち刑を支持しないならば、モーセの律法を否定する者として訴えることができる。逆に、イエスが石打ち刑を支持するならば、ローマの司法権を侵す者としてローマに訴えることが可能となるのである。と言うのは、当時のユダヤはローマの統治下にあり、司法権は総督に属していたからである。ユダヤ議會は律法違反者に死刑を「宣告」する権利を有していたが、その執行に当たっては総督の認可が必要であったのである(18・31参照)。イエスは身をかがめて、指で地面に何か書いておられた。何を書いていたかについては諸説あるが、いずれも推測の域を出ないことを踏まえて

おく必要がある。興味深いものとしては、判決を書き下した上で読み上げるというローマの裁判官の所作を真似ていたのではないかという説がある。あるいは神が十戒を指で書かれたように（出エジプト31・18）、イエスも指で十戒を書いていたのかもしれない（次節で触れる「心の中の姦淫」との関連で第十戒「あなたは隣人の家（妻）をむさぼってはならない」は重要）。

**7 あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい** イエスは律法を明確に支持しつつも、刑を執行する者のあり方をも問われた。すなわち罪人を罰する者は、罪なき者でなければならないのである。イエスは山上の説教において「心の中での姦淫」（マタイ5・28）を厳しく指摘された。第十戒（むさぼりの戒め）は行為ではなく心の中を問う。その点で潔白を主張できる者はいない。彼らはイエスを困らせようとして、かえって困惑させられるに至ったのである。

**8 そしてまた身をかためて** 彼らに目を向けられないようにされたのは、彼らが良心に素直に従って行動できるようにという配慮からかもしれない。

**11 わたしもあなたを罰しない** 彼女が無実であるという

ことではない。罪を見逃されたのでもない。「わたしがきたのは、この世をさばくためではなく、この世を救うためである」（12・47）。神だけが罪を裁き、罪を赦す力を持つのである。

**12 わたしは世の光である** 「」部分を踏まえ、この12節からの部分は7・52からつながると見るべきである。すなわち、夜には市中が松明で照らし出される、仮庵の祭の終わりの日（7・37）に、「世の光」宣言はなされたのである。旧約聖書は、神がその民の光であると語る（詩27・1）。その御顔の光に照らされて民は恵みと平安を享受する（民数6・24・26）。また、主のしもべは諸国への光とされ、彼を通して救いが地の果てまで届けられる（イザヤ49・6）。これらの旧約の用語を、イエスは受肉した言として体現したのである。受肉する前から「この言に命があった。そしてこの命は人の光であった」（1・4）。今や、その「まことの光」（1・9）が受肉され、世に到来し、すべての人を照らすに至ったのである。

**参考図書** 注解書 G.R. Beasley-Murray (Word), F.F. Bruce (Eerdmans), B. Lindars (New Century Bible), その他 The IVP Bible Background Commentary: NT

聖書 ヨハネの福音書8・1～12

タイトル 光であるイエス様

暗唱聖句 わたしは世の光である。ヨハネ8・12

目標 世の光キリストによる救いを頂き、キリストに従って生きる。

### 導入

(飯田勝彦)

昔、一人の男性が家の近くの山を歩いている時、あやまって古井戸に落ちてしまいました。幸い、水はありませんでしたが、井戸は約8メートルもの深さがありました。男性は「おおい、助けてくれー!」と大きな声で何回も叫びました。でも、周りには誰もいません。そこはあまり人が来ない所だったのです。自力で抜け出そうとしますが、無理でした。とうとう、一週間も井戸の暗い底に閉じこめられてしまったのです。

男性の所在が分からなくなった家族が警察に捜索をお願いして、男性は無事に助け出されました。彼は、ようやく暗闇の世界から光の世界へ移されたのです。もし、そのままでいたら死んでいました。その男性はどんなにか嬉しか

ったでしょう。

これは、私たちの心の中のこととして受け止めることができます。皆さんは今、暗闇の中にいますか？それとも、光の中にいますか？

### 暗闇の中にいた女

ある時、イエス様は朝早く、エルサレムの神殿でご自分に近づいて来た多くの人たちを教えておられました。彼らは、イエス様の教えに真剣に耳を傾けていました。ところが突然、「こら、早くこちに来い! しょうがない奴だ!」と、慌ただしい声が聞こえて来ました。その声の出所に目を向けると、一人の女性が律法学者たちに囲まれ、引きずられるようにして神殿に入ってきたのです。この女性は、神様の戒めを破る罪を犯していたところを捕まり、イエス様のもとに連れて来られたのです。

神様の戒めを破る者は、神様に背を向けている人であり、罪という暗闇の中にいる人です。ですから、この女性は、心を暗闇に支配され、罪を犯さないと生きていけない悲しい人生を送っていたのです。

皆さんは、「神様なんていないよ!」とか「悪いことをしたってバレなかったら大丈夫」と思っていますか。

10月

30日

# 礼拝メッセージ例

もし、そうだったとしたらこの女性のように、神様に背を向けて暗闇の中を歩いていることになります。それは決して幸せな人生ではありません。

## 心に光が当てられた律法学者

女性を連れて来た律法学者たちは、イエス様がどのような女性を裁かれるか試しました。

この女性が犯した罪の刑罰は、律法では石打ちの死刑にあたるものでした。律法学者たちは、もし、イエス様が「石打ちの刑にしてはならない」と言えば、神様が与えられた律法を破る人としてイエス様を訴えるつもりでした。また、「石打ちの刑にしろ」と言えば、ローマの法律をおかす者として訴えようとしていました。どちらにしても、律法学者たちはイエス様を陥れようと計画していたのです。

ところが、イエス様は律法学者たちの訴えに対して「あなたがたの中に罪のない者が、まずこの女に石を投げるがよい」と言われました。すると、どうしたことでしょう。今まで女性を責めていた律法学者たちは、年を取った者から、一人一人そこから去って行きました。彼らは、光であるイエス様の言葉によって、自分たちの中にある罪に気づきました。罪人である自分は人を裁くことができない、と

わかったのです。

## 光の中に導かれるイエス様

この女性を裁く者はいなくなりました。目の前にはイエス様だけがおられます。イエス様もこの女性に「わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように」と言われたのです。イエス様は、この女性を罪の裁きから解放されたのです。

私たちは皆、罪人です。罪のままでいるなら神様の裁きを受けなければなりません。でも、イエス様が私たちの罪を十字架と復活で解決してくださいました。イエス様を信じる者は、この女性のように罪の刑罰から解放されるのです。

この女性は、イエス様によって今後、罪を犯さなくてもよい光の中へと導かれたのです。

## まとめ

光であるイエス様は、私たちを暗闇から光へと導いてくださいます。光であるイエス様によって、新しい命をもらい、すばらしい人生を歩むことができます。光であるイエス様を心に迎えましょう。

♪じゅうじか♪ (ホーリネス子どもさんびか 62)





## 聖書 ヨハネ9・15-11

## テーマ 神のみわざが現れるため

## 序論

(高橋頼男)

道を歩いて行かれる途中、ふと歩みを止められたイエスは、道端で物乞いをしていた一人の目の不自由な人をご覧になりました。弟子たちは彼についてイエスに質問しました。「先生、この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか」。イエスは、答えて「本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである」と言われました。

驚くべき答えです。空しい、堂々巡りの過去の因縁やこだわりを全く断ち切り、新しい将来を描かせ、希望をもって生きる力を得させる、素晴らしい力ある言葉です。

## 一、古くからの問い(152)

3月11日、未曾有の東日本大震災が起きました。その被害が詳しく報じられ、深刻な原発の問題も明らかになるにつれて、日本中が、世界がその惨禍に震撼し、大変な問題として受け止められました。多くの人々の思いが突

き動かされ、同情と奉仕の心が起こされました。同時に、なぜ、こんな悲惨な災害が起こったのかという素朴な疑問も生まれ、今まで、神のことなど関係なく生きていた人々が、にわかに「神」を問いだしました。「神さん、ひどいことしよる!」また、「天罰だ!」とは、そのような中で出てきた物議を醸す一つの意見です。

道端の目の不自由な人を見た弟子が「だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか」と、古くからあるこの問いをイエスに投げかけました。「因果応報」という考え方は、古くから多くの国や民族の間にもあるようです。一つの結果には、必ずその原因があるという解釈です。時に、これは苦しみの中にある人を、さらに深い苦しみの闇に突き落とし、非常に冷酷で、突き放した人生観、世界観を導きます。その背後には非人格的で気まぐれな神観(神についての考え方)があります。

## 二、問題にかかわられる神(3)

弟子たちは、通りかかりの道端で、たまたま物乞いをしていて目の不自由な人を見て、イエスに日頃の疑問を尋ねたのです。通りすがりに、目の不自由な人の面前で、彼の生活と全く係わりのない世界から、「生まれつきの盲人」

11月

6日

聖書講解

を題材に、信仰問答や神学論争を仕掛けたのです。何と心ない言動でしょうか。

イエスのお答えは、弟子たちの発想や予想とは全く違っていました。

①まず、〈本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない〉と言われ、人々の頭に浮かぶ応報論のたぐいを否定されました。

②イエスは、弟子たちが期待した疑問に直接応対する答えをなさいません。

「神さまは、わたしたちが答えを知りたいと切に願う疑問に必ずしも答えを与えられるわけではありません」『なぜ私だけが苦しむのか―現代のヨブ記』(H・S・クシュナー)。  
③さらに、〈ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである〉と驚くべき言葉を語られたのです。この言葉の中に、すでにこの目の不自由な人にかかわっていこうとされる神の御心が明らかにされています。

罪に満ちた人間世界を見捨てず、むしろ積極的なかかわりを持つため、矛盾と意味不明、わけがわからなくなっている混沌(こんとん)の世界を引き受けるため、事実、神の御子はおい became になったのです。そして、ついに理不尽極まる呪い(のろい)の十字架に自らつけられ、「わが神、わが神、どうしてわたし

をお見捨てになったのですか」(マルコ15・34)と叫ばれました。「どうして、なぜ」と問わずにおれないこの世界の悲惨、人生の矛盾や混沌に對して、これこそ、この事実こそ、神の答えではないでしょうか。

### 三、神のみわざが現れるため(3、6、7、25、38)

イエスは、この目の不自由な人の信仰を訓練し、導かれました。彼はお言葉に従い、シロアムの池に行って洗うと、見えるようになったのです。そして、彼は、肉の目が開かれただけでなく、ついに霊の目も開いていただきました。迫害の中で主を力強く証し、主を礼拝する者とされ、神の栄光のために生きる新しい人生が始まったのです。

わたしがお出合いした目の不自由な信仰者の方の10人のうちの10人が、ヨハネ9・3を示し、「わたしは、このみ言葉で救われたのです!」と感動をもって語られました。お一人お一人の内に秘められていた過去の煩悶(はんもん)を思い出す。しかし、イエスのこの言葉が、過去を断ち、未来に生きる勇気を与え、束縛から真の自由解放へと、霊の目を開いて闇から光の世界へと導いたのです。

### 結論

神の御計画の最善を信じ、神の御業が現れる生涯を生き抜きましょう。

## 研究資料

(中島啓二)

このシロアムの池における目の不自由な人のいやしは、先に8・12でなされた「わたしは世の光である」という宣言の具体的な例証と言える。ペテスタの池における足の不自由な人のいやし(5章)と類似点も多いが、いやされる側に能動的な役割が与えられている点で対照的である。すなわち、彼はイエスの命令に従った。その結果「神のみわざ」が彼の上に現れたのである。さらに彼は、<sup>うよきよせつ</sup>紆余曲折を経て、自分に恵みを施して下さった方の本当のお姿を知ることになる。そして「主よ、信じます」(38)と、信仰を告白するに至るのである。

## テキスト

1 道 「宮から出て行かれた」(8・59)から、神殿の近くと考えられる。生れつきの盲人 当時、目の不自由な人は、施しに頼る以外に生活の術がなく、人々が慈善に心を向けやすくなる神殿の近くで物乞いすることが多かった(使徒3・2)。

2 この人が生れつき盲人なのは 目的・結果を示す接続詞[ヒナ]が用いられている。「誰かが罪を犯した↓それ

ゆえ目が不自由である」という発想である。当時のユダヤ社会では、目が見えないなどの苦難は、しばしば罪の結果であると考えられた。「誰かが…」を当然の前提と見なして、弟子たちの議論は「誰が…」に飛躍する。だれが罪を犯したためです。両親の罪、胎内にいる時の本人の罪など本人の罪というと前世の罪を連想するかもしれないが、ユダヤにその発想はない。この応報(天罰)の発想は、ヨブの友人たちの考えからほとんど進歩していないものである。3 ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである イエスも[ヒナ]を用いるが、弟子たちとは方向が正反対である。すなわち、「目が不自由である↓神のみわざが現される」という方向であり、これが神の発想である。ただし神が意図的にその人を目が不自由な者として誕生させられたと考えるのは早計である。測り知ることのできない神の摂理があることを人は謙遜に受け止める必要がある。摂理の中で、一見(あるいは一時的には)不幸に思えることを通しても、神は超越的な力を発揮されて、結果的には、その人がイエスの御顔に映る神の栄光を見ることができるようにして下さった。さらにそのみわざを通して、周囲の人たちにも、イエスこそがまことの世の光であることを認め

るようにと、方向転換を促されたのである。

**4 わたしたちは、わたしをつかわされたかたのわざを、  
屋の間にしなければならぬ** 一義的には自身について語  
っている。「わたしが天から下ってきたのは…わたしをつ  
かわされた方のみこころを行うためである」(6・38)。「屋  
の間に」は自身が世にいる間ということだろう(5)。そ  
の上で「わたしたち」(弟子たちや教会もイエスの弟子で  
あることを自覚し、そのわざを励むのである(14・12参照)。  
**夜が来る。すると、だれも働けなくなる** ユダがイエスか  
ら離れて「夜」に出て行ったことは象徴的である(13・30)。  
**5 わたしは、この世にいる間は、世の光である** 8・12  
における宣言を踏まえての言葉。このいやしはまさにその  
宣言の具体的な例証と言える。

**6 地につばきをし…** つばきをいやしに用いる例はいく  
つかあるが(マルコ7・33、8・23)、土と混ぜてどろを  
作るのはここだけである。

**7 シロアム(つかわされた者、の意)の池** シロア(イザ  
ヤ8・6)、シラの池(ネヘミヤ3・15)も同じ場所とさ  
れる。伝統的にヒゼキヤがギホンの水を引くために掘った  
地下水路(歴代下32・30)の終点とされてきたが、2004

年に南東100メートルほどの場所に新たな遺跡が発掘され、  
今日ここが本来のシロアムの池であったと見なされている。  
その名は、ここでは、まさに神からつかわされた救い主で  
あるイエスを指し示していると言えよう。そこで彼は行  
って洗った。そして見えるようになって… 彼もまたイエ  
スによって「つかわされ」、言われたとおりに従った。す  
ると、神のみわざが彼の上に現れ、彼は生まれて初めてそ  
の目で神の造られた世界を見るに至ったのである。

**8・10 おまえの目はどうしてあいたのか** 長年そこで物  
乞いをしてきたその人を、周囲の人々はよく知っていた。  
彼らが、彼の目が見えるようになったことを不思議がり、  
またなぜそうなったかを知りたがったのは自然なことであ  
った。

**11 イエスといつかたが…見えるようになりました** 彼は  
簡潔に事実を伝えた。ここでは「イエスといつかた」とい  
う表現にとどまっているが、以後、彼の中でのイエス像は  
段階的に成長していく。すなわち「預言者」(17)となり、  
次に「神からきた人」(33)と変化し、最後には「主よ、  
信じます」と、信仰と礼拝の対象になるのである(38)。

#### 参考図書

10月30日分と同じ。



11月

6日

## 礼拝メッセージ例

## 神のみわざは現れた

イエス様は地につばきをし、どろをつくり、そのどろをその人の目に塗っておっしゃいました。「シロアムの池に行つて洗いなさい」と。シロアムつていう名前には「つかわれた者」という意味があるのです。そう、神様から遣わされたイエス様が癒してくださる！そう信じて彼は行つて洗いました。やつたーっ。見える、見えるんです！見えなかった目が、完全に癒されました！それだけじゃありません。心の目も開かれ、イエス様こそ救い主だと分つたのです。ハレルヤ！

## 例話

和歌山教会の小倉さんのお話をしましょう。小倉さんは15歳の時、重い病氣になつて、それから5年間も入院しなければなりません。学校にも行けず、時々ものすごい発作が起こり、本当に辛い毎日を送っていたのです。どうしてこんなことに…と、真つ暗な気持ちで暮らしていました。ある時、郵便受けに和歌山教会の案内とアンケートはがきが入っていました。さっそく返事を出したところ、牧師先生ご夫妻が訪ねて来られ、聖書を開いて、今日のこの箇所、生まれつき目が見えない人とイエス様との出会いのところからお話して下さいました。小

倉さんはこの言葉に突き動かされるようにして、教会に通い始めたのです。やがて、「イエス様の十字架の死は、僕自身の罪のためだ」とハッキリとわかり、イエス様を信じて救われたのです！

病氣は治つたでしょうか？お医者さんも驚くほど回復しましたが、治つたわけではありません。でも、それからしばらくして聖書を読んでいるとき、「神がつかわれた者を信じることが、神のみわざである」という、ヨハネ6・29のみ言葉が小倉さんの目に飛び込んだのです。「ああ、神のみわざが現わされた！僕は確かに救われて、こんなにも喜びにあふれている！」30年たった今も病氣との闘いがあります。でも、イエス様を愛し、子どもたちを愛して、教会学校の先生として精一杯生き生きと神様に仕えておられます。ハレルヤ！

## まとめ

苦しみは神様からの罰ではありません。私たちを大きな愛で包んでいてくださる神様は、私たち一人ひとりのために、最善のご計画を持っておられるのです。信じるなら、神様の業が現れる人生を送らせてくださいます。信じて従いましょう！

♪感謝します♪（リビング・プレイズ 131）



## 聖書 ヨハネ10・1～15

## テーマ 羊飼いのキリスト

## 序論

(高橋頼男)

キリストは、「わたしはよい羊飼である」と言われました。また、「よい羊飼は羊のために命を捨てる」とも言われました。主イエスが、わたしの良い羊飼いであるということは、わたしにとって、どういう意味をもつことなのでしょう。

## 一、弱く迷いやすい羊(イザヤ53・6)

羊は弱くて迷いやすいのです。また、迷っていることの自覚さえないこともあります。

迷い出ってしまった羊は、危険な状況にあります。オオカミやハイエナなど、羊を狙う猛獣がいますし、断崖や地表の割れ目、深い谷など、あらゆる危険が待ち受けています。主イエスは、私たち人間が、おるべきところから逸脱し迷い出た存在であることを、「失われた者の三つの姿」(ルカ15章)のたとえを通して教えられました。これらは、神を離れた人間の悲惨な姿です。そして、私たちの内には、神の尊さをいただきつつも、孤独や空しさ、存在の意味を失ってしまったという「失われた者の自覚」があります。

さらに、イエスは「人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである」(ルカ19・10)と言われました。主は迷い出た者を、そのまま放っておかれませんでした。迷い出て失われた者を何としても救い出すために、覚悟と決意をもって行動なさるお方です。

私たちは、弱く、迷い出ってしまった一匹の羊ではないでしょうか。

## 二、良い羊飼いの(3～15)

主イエスは、私は「良い羊飼い」であると言われました。良い羊飼いとはどのような者でしょうか。

## ①羊のことをよく知っている(3、14)

何よりも、自分の羊のことに關しては、あらゆることを熟知している羊飼いこそ良い羊飼いでしょう。彼は、「自分の羊の名をよんで連れ出す」のです。その羊の一匹一匹の特徴と性質をよく知ったうえで、養い導いてくださいます。

## ②羊の門となる(7)

牧羊地では、夜になると羊たちは囲いの中に入りますが、門には扉がありません。そのままでは危険ですから、その門のところに羊飼いが身を横たえて、自分が門となって番をするのです。夜中は危険なときです。羊を狙って猛獣や

盗人・強盗がやって来ます。しかし、門となつて横たわっている羊飼いを踏み越えてでなければ、だれも羊を襲うことはできません。良い羊飼いは、体を張つて羊を守つてくれるのです。主イエスは「わたしは門である」と力強く言つてくださいます。

### ③羊のために命を捨てる（11、15）

良い羊飼いは、自分の羊を守るために、盗人や強盗、恐ろしい猛獣などと命を懸けて戦います。そのため、時には羊飼いが命を落とすこともあつたのです。しかし、やとわれの羊飼いは、自分の命を懸けることまではしません。自分の羊ではないからです。主イエスは、私たちを「自分の羊」として取り扱われます。十字架に命を投出して愛してくださいました。

### 三、安らかな出入り、豊かな養い（9、10）

羊のことをよく知り、心にかけて、命までも与えてくださる良い羊飼いに信頼してついていくなら、「やすらかな出入り」、すなわち、私たちの人生の初めから終わりまで、安らかで安全、充足していることが約束されています。

また、主は「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである」と言われました。良い羊飼いである主の豊かな養いにあずからせていただきましょう。その

恵みと祝福は、詩篇23篇に言い表されています。

「主は私の羊飼いですから、必要なものはみな与えてください。主は私を牧草地にいわせ、ゆるやかな流れのほとりに連れて行かれます。傷ついたこの身を立ち直らせ、私が最高に主の栄光を現す仕事ができるよう、手を貸してください。たとい、死の暗い谷間を通ることがあつても、こわがたりしません。主がすぐそばにいて、道中ずつとお守りくださるからです。…まるで、あふれんばかりの祝福です。生きている限り、主の恵みといつくしみが、私についてきます。やがて、私は主の家に着き、いつまでもおそばで暮らすことでしょう」（リビング・バイブル）。

主は「わたしはよい羊飼いである」と言われます。私たちは「主は、私の牧者です！」と、心から応答し、その豊かな養いに与る者とならせていただきましょう。

### 結論

主イエスこそ私の良い羊飼いです。このお方は、弱く、迷いやすい私たちのことをよく知つて、私たちを守り、導かれます。私のために、いのちさえ惜しまず与えてくださいました。私たちの羊飼いであるキリストを、新しく仰ぎ、このお方に信頼し、私の全てを委ね、お従いしましょう。



## 研究資料

(中島啓二)

前章で、イエスは生まれつき目が不自由であった人を見えるようにされた。しかしパリサイ人らはその人を会堂から追い出してしまった(9・35)。それは宗教共同体からの破門を意味する。そのことを踏まえて、イエスはこの羊飼いのたとえをパリサイ人たちに語ったのである。

このたとえの中で、よい羊飼いがイエスであることは言うまでもないが、盗人、強盗が当時の宗教指導者たちを指していることも明らかである。すなわち、神から、その所有である羊を託されていたはずの指導者たちは、目が不自由であったその人をも責任もって世話するべきであったのに、かえって彼を囲いの外に追い出してしまった。しかしその人は、イエスというまことの羊飼いと出会い、その囲いに導き入れられるに至ったのである。

なお、このたとえの背景にエゼキエル34章があることはよく知られている。エゼキエルを通して神は、「あなたがたは脂肪を食べ、毛織物をまとい、肥えたものをほふるが、群れを養わない」(3)と、宗教指導者たちを糾弾した。羊を守るはずの彼らによって「わが羊は散らされ」(6)た

のである。それゆえ神は、彼らから職を取り上げ、散らされた羊を捜し集め、その群れのために「ひとりの牧者を立てる」と約束された。「わがしもべダビデ：彼は彼らを養い、彼らの牧者となる」(23)とある。今やその預言は成就した。すなわちダビデの子孫であるイエスこそが、神がその民のためにお立てになった、最良の羊飼いなのである。

## テキスト

**1 羊の囲い** 夜間、羊たちは石の壁で作られた囲いに入れた。壁の上部には通常、侵入者を防ぐためのいばらがあつた。**盗人であり、強盗である** ユダヤの語彙では、家などに押し入るのが盗人、屋外で通行人などを襲うのが強盗である。羊飼いはその両者から群れを守る必要があつた。

**2・3 門** 囲いの門は普通一カ所に設けられ、門番によって守られていた。**羊は彼の声を聞く。そして彼は自分の羊の名をよんで連れ出す** 複数の羊飼いによって一つの囲いが共用されることは普通であつた。その場合でも羊飼いは門に立つて羊の名を呼ぶだけでよかった。羊が飼い主の声を知っているからである。ここに羊飼いと羊の間の人格的なきずなを見出すことができる。神はご自身の所有の民を名前では呼ばれる(イザヤ43・1)。

5 ほかの人 宗教指導者たちを指す。彼らは見えないのに「見える」と言い張り、神から託された羊を間違った方向に導こうとした(9・41)。

6 彼らは…何のことだか、わからなかった 自分たちこそ神から群れを託された羊飼いだ、と自認していた彼らには、たとえの真意が分からなかった。

7 わたしは羊の門である 「羊飼いのたとえ」の中に、短い「門のたとえ」(7、9)が挿入されている。後に語られる「わたしは道であり…」(14・6)と意味的に近いと言えるだろう。イエスこそ、救いへの道であり、また門なのである。

9・10 わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである よい羊飼いは、群れの羊が最低限の必要を与えられるのみで、なんとか生きながらえているだけでは満足しない。イエスの望みは、神の民が永遠の生命を受けて、その人生を最大限の豊かさで生きることなのである。

11 わたしはよい羊飼である。よい羊飼は、羊のために命を捨てる 盗人(不誠実な指導者たち)は、群れのためではなく、自分の利益のために行動する。しかしよい羊飼いは、群れの羊を盗人や獣から守り、彼らに命

を与えるために、自分の命を捨ててくださったのである。

12・13 羊が自分のものでもない雇人 雇人は、よい羊飼いが持つていような羊に対する人格的な愛を持ち合わせておらず、危険が迫るときには自分を優先にする。この雇人がたとえの中で何を指すのかは定かではない。盗人などと並行して宗教指導者たちを指すと考えてもよさそうだが、雇人は盗人のように悪意に満ちてはいない。何を指すにしても、それがたとえの中心ポイントではなく、それとの対比によって、よい羊飼いの性質がさらに浮き彫りにされるということが重要であろう。

14・15 わたしの羊を知り、わたしの羊はまた、わたしを知っている 羊を知り、羊に知られているということが、よい羊飼いの証しである。動詞(ギノスコ)「知る」は現い形で、一時的でない永遠の知識を示している。父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っていると同じ御父と御子とのお互いを知る特別な知識に基づく関係が、羊飼いと羊との関係にまで拡大されるのである。三位一体の永遠の交わりに招くという人間の創造の目的が、ここにも表されていると言えよう。

参考図書 10月30日分と同じ。

## 聖書

ヨハネ10・1〜15

## タイトル

イエス様は私たちの羊飼い！

## 暗唱聖句

わたしはよい羊飼である。よい羊飼は、

羊のために命を捨てる。ヨハネ10・11

## 目 標

私たちのために命を捨ててくださった

羊飼いキリストを信じる。

## 導入

(和田治)

みんなはどんな動物が好きですか？わんちゃんやにゃんこちゃんを飼っている人もいるでしょう。ところで、例えば野良犬とか野良猫っているよね。つまり、お世話をしてくれる人間がいなくても生きている犬や猫は、あちこちに結構いるんです。実はほとんどの動物は、人間のお世話が要らないんですよ。ところが、羊は『羊飼い』のお世話がないと生きていけないんですよ。知ってた？今日は、イエス様がおっしゃった「わたしはよい羊飼である。よい羊飼は、羊のために命を捨てる」というお言葉を、いっしょに味わいましょう。

## 迷子の羊

よい羊飼いであられるイエス様を信じていないときの私たちは、ちょうど、迷子まいこの羊のようです。羊飼いで離れ

た迷子の羊は、必ずお腹はぺこぺこになり、のどはからからになり、困り果ててしまいます。恐ろしい狼やハイエナに襲われてしまいます。危険なけや深い谷もあるのです…。しかも、迷子の羊は自分で羊飼いのところに帰ることができません。羊飼いが探しに来てくれて、見つけ出してくれないければ、滅びるしかないのです。私たちも、もしも、よい羊飼いであられるイエス様のもとから迷い出てしまつたままだったら、そこには危険や誘惑がいっぱい…。あぶない！あぶない！迷子の羊と同じではないでしょうか。でも大丈夫！イエス様はよい羊飼いです。私たちはイエス様の羊なのです。では、よい羊飼いであられるイエス様ってどんなお方でしょう？

## よい羊飼い

まず、よい羊飼いは「羊のことを良く知って」います。百匹でも二百匹でも、飼っている一匹一匹の羊の名前を全部覚えていきますよ！そして、「めーちゃんや少し元気がないな…」「しろくんは少しおびえていて落ち着きがないな…」つて、よく分かっていてくれるんです。イエス様も私たちのことを、全部知っていてくれるんですよ。何が辛いか、どれくらい苦しいのか、なぜ寂しいのか、どうして泣いているのか…。だから、その痛みを癒し、本当の慰

11月

## 13日 礼拝メッセージ例

めで満たしてくれるんです。

そして、よい羊飼いは「門」になってくれるんです。

「え？ どういうこと？」 って思うよね。羊を飼う山や丘

では、夜になると羊たちは囲いの中に入ります。でも、

その門には扉がないんですよ。そのままでは危ないですか

ら、門のところに羊飼いが身を横たえて、なんと、自分が

門となって番をするんです。夜中は羊たちにとつて、とつ

ても危険なとき…。羊を狙って猛獣やどろぼうがいつや

つて来るかわかりません。門となって横たわっている羊

飼いは、「ぼくの羊はぼくが守る！ 羊に手出しはさせない。

どうしても羊を襲うつもりなら、ぼくを殺してからにしろ

…！」つて、まさに命をかけて羊を守ってくれるのです！

さつすがあ！ よい羊飼いい！ たのしいですよ〜！

イエス様は「わたしは羊の門である」とおっしゃいました。

そして、「わたしはよい羊飼である。よい羊飼は、羊

のために命を捨てる」とのお言葉の通りに、十字架にかか

つて、私たちのために命を投げ出してくださったのです。

### コルベ神父

第二次世界大戦という戦争のときのことです。ナチス

ドイツによって、たくさんのユダヤ人やポーランド人が、

悪いことをしていないのに捕まえられ、殺されました。

その内の一人、コルベ神父のことをお話ししましょう。ア

ウシビッツという所で一九四一年、脱走者が出たの

です。そこで、罰として10人が、食べ物も飲み物も与

えられず殺されることになりました。選ばれた10人の

うちの一人が泣き叫び出しました。「私には妻と子ど

もがいます。絶対に死にたくありません。助けて下さ

い〜っ！」この声を聞いたとき、そこにいたコルベ神

父は「私が彼の身代わりになります。私はカトリック

司祭で妻も子もいませんから」と申し出たのです。コ

ルベ神父と9人が地下牢の餓死室に閉じ込められまし

た。普通そこは、最後の一人が死ぬまで、うめき声や

泣き声や叫び声が聞こえてくるそうです。でもその時

は、お祈りや賛美の歌声によつて餓死室はまるで礼拝

堂のようだったそうです。コルベ神父が身代わりとし

て死んでくれたために助かったガイオニチエクという

人は、戦争が終わつてから、コルベ神父がしてくれた

ことをたくさんの人々に伝えました。

### まとめ

イエス様が私たちのために十字架で命を捨ててくだ

さならなければ、私たちは迷った末に滅びるしかありま

せんでした。よい羊飼いであられるイエス様に心から

感謝し、従っていきましよう！

♪ 小さい羊が♪ (こどもさんびか 72)



## 聖書 ヨハネ11・17～44

## テーマ 神の栄光を見る信仰

## 序論

(高橋頼男)

主イエスは、死んで葬られ、その遺体がすでに四日間も墓の中に置かれているラザロについて、〈あなたの兄弟はよみがえるであろう〉と、驚くべきことを宣言されました。姉のマルタは、終わりの日のよみがえりの時のことを言われたのだと受け止めたが、そうではありませんでした。イエスは、ラザロの墓の前に立ち、〈もし信じるなら神の栄光を見るであろうと、あなたに言ったではないか〉と言われ、その場でラザロを墓の中からよみがえらせなさいました。

## 一、死という現実(17～29)

愛する者の死、そして、死の事実を現実のものとして徹底させる葬り、さらに、墓に葬られて四日経過しているという状況、これらのことはやラザロに関して、何の望みもなく、希望は完全に失せたということです。祈つて主を期待していたマルタとマリヤでした。「あなたが愛しておられる者が病気です」との短い知らせで十分であると信

じていました。しかし、主は来てくださらなかったのです。遅れて来られた主の前で、マルタもマリヤも思わず〈主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう〉と、言いました。しかし、マルタは、自分が今も主に対する信仰を失ったのではないことを言いました。これに対して、主イエスは〈わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たといい死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない〉と言われたのです。マルタは、やがて終わりの時によみがえることを信じていますと告白しました。しかし、彼女は、「主が、今、ここで、この状況のなかで、わたしに働きかけてくださる」という生きた信仰をもつことができませんでした。まったく信じていないのではありません。たしかに、今も主を信じているのです。しかし、主のお言葉と現実の差があまりにも大きく、今、ここでお言葉のとおりには信じることができなのです。そして、ラザロのよみがえりを将来のこと、教理上のこととして受け止めようとしたのです。

わたしたちの信仰の問題は、しばしばこの不信仰にあります。厳しい現実の状況を超えて語りかける神のお言葉を

なかなか信じることができないでいます。また、しばしば私たちの心には失望があります。信じたけれども、信じたようにはならなかった、願うように、思うようにならなかったという、かつての苦い経験<sup>にが</sup>、失望感があるのです。これらは、主のお言葉をしっかりと受け止めることをさまたげてしまいます。

## 二、死からのよみがえり (30〜44)

主の遅れは、主のご計画であり、この遅れが主の栄光を圧倒的に現す機会となるのです。死んで四日経った死人のよみがえりは、全く考えられないことでした。「ユダヤ人の間には、死者の魂は三日間、死体の近くにあって体に戻ろうとするが、四日目には肉体が腐敗していくのを見て、最終的にはその場を離れるという考えがあったといわれる。ラザロの復活をだれもが真の奇跡と認めるように、イエスは四日目まで延ばしたのかもしれない」(イエスの生涯・内田和彦)。

わたしたちの周囲の現実や状況、思いや願いをはるかに超えたところで、神様の御業がご計画されていることを信じたいと思います。とりわけ、私たちの祈りが聞かれないと思われるとき、願うように思うようにいかないとき、違

う結果が現れたとき、神様は私たちの思いを超えてご自身の御業を進めておられるのです。そして、それは神様ご自身の栄光をいかに現すこととなるのです。

〈もし信じるなら神の栄光を見るであらうと、あなたに言ったではないか〉。

## 三、聞かれざる祈り

内村鑑三<sup>かんぞう</sup>には、麗しい信仰者であった娘のルツ子がいました。彼は娘を深く愛していました。ある時、彼女が病気になるます。父、鑑三は切に愛娘の癒<sup>い</sup>しを神に祈りました。そして、「この病は死に至らず、神の栄光のため、神の子のこれに由りて栄光を受けんためなり」(文語訳)とのみ言葉に、娘の癒<sup>い</sup>しと回復を確信しました。しかし、そのような熱い祈りも固い信仰も空しく、ルツ子は死んでしまします。彼の信仰は根底から試みられました。しかし、ついに墓地に遺体を納める時、彼は「ルツ子さん、ばんざい!」と天に大声で叫んだのです。この経験を通し、彼は長年の疑問であった復活信仰を獲得し、イエスの死と復活を大胆に語り出したのです。

## 結論

信仰によって神の栄光を見る者となりましょう。

## 研究資料

(中島啓二)

「墓の中にいる者たちがみな神の子の声を聞き、…よみがえって、それぞれ出てくる時が来るであろう」(5・28、29)。ラザロのよみがえりは、この終わりの日に起こる出来事の前提、あるいは生きた「たとえ」と理解して良いだろう。神は終わりの日に、墓の中にいる者たちをよみがえらせるだけでなく、今、「神の子の声」を聞く者にも、よみがえりの命をお与えになるのである。

## テキスト

17 イエスが行ってこらんになると、ラザロはすでに四日間も墓の中に置かれていた イエスは「ラザロが病気でであることを聞いてから、なおふつか」(6)の間、ご自身の「時」(2・4、7・6)を待つておられた。当時一般には、死者の魂は死後3日を過ぎてから、永遠に墓を去ると考えられていた。この4日という日数は、ラザロの死が動かしようのない事実であることを示す。

19 大ぜいのユダヤ人が…慰めようとしてきていた ユダヤでは、埋葬から一週間にわたって、遺族が家の床に座って深い悲しみの日々を過ごし、人々の弔問を受ける。この

慣習は「シバー(七の意)」と呼ばれ、今日も行われているそうである。

21、22 もしあなたがここにいて下さったなら 必ずしも不平ではなく、イエスに対する信仰も含まれている。それゆえ、あなたがどんなことをお願いになっても、神はかなえて下さる と続く。

23、24 あなたの兄弟はよみがえるであろう イエスはこれからすぐに起こる肉体のよみがえりについておっしゃった。しかしマルタは、終わりの日のこととしか受け止められなかった。当時のユダヤ教では、終わりの日のからだのよみがえりが一般に信じられていた(パリサイ人はそのことを信じ、信じないサドカイ人と対立していた)。

25、26 わたしはよみがえりであり、命である 死者をよみがえらせ、命を与えるお方は、ご自身がよみがえりと命そのものであられる。それはイエスが「永遠の命に至る朽ちない食物」(6・27)を与えると言われた後に、「わたしが命のパンである」(6・35)と宣言されたのと似ている。たとい死んでも生きる 信じる者がイエスと結び合わされているなら、肉体の死を経験しても、イエスのよみがえりにあずかることが出来る。いつまでも死なない

「わたしの言葉を守るならば、その人はいつまでも死を見ることがない」(8・51)。肉体の命は必ず終わる。しかし命そのものである方につながった命は、いつまでも続くのである。

27 あなたがこの世にきたるべきキリスト、神の御子であると信じております マルタは、イエスの言葉を理解できたわけではなかったが、イエスの言葉を受け入れ、真心からの信仰を告白した。

33 激しく感動し (㉞)エンブリマオマイ(直訳「憤って」鼻を鳴らす)。この憤りは、人々を絶望に追いやる死に対して、そして不信仰によって死に翻弄ひんろうされている人々に対して向けられたものだろう。

35 イエスは涙を流された ワツと泣き出すような泣き方。ラザロがよみがえるのを知っておられたにもかかわらず涙を流されたことは、イエスが全き神であると共に、全き人であったことを示している。それゆえ「わたしたちの弱さを思いやる」ことがおできになるのである(ヘブル4・15)。

39 石を取りのけなさい 円形の石が、風雨や獣、盗人等から遺体を守るため置かれていた。もう臭くなっております。すでに腐敗は進行していた。現実を前に実際のマルタは不信仰に陥る。

40 もし信じるなら イエスはマルタに、彼女が告白した

信仰に立ち返るための道標を与えた。

41・42 あなたがわたしをつかわされたことを、信じさせるため 人々が知るべきことは、神とイエスの一体性であった(17・21参照)。

43 ラザロよ、出てきなさい この呼びかけは、終わりの日の呼びかけを指し示すものである。ラザロが与えられたものは、よみがえりの命を指し示すとは言うものの、まだ朽ちる命の刷新に過ぎない。けれども終わりの日には、主は人々をよみがえりの命へと招いて下さるのである。その命を人々に与えるために、ご自身がまず十字架で死に、「眠っている者の初穂として」(1コリント15・20)、よみがえらねばならなかったのである。

44 死人は手足を布でまかれ…たまま、出てきた ユダヤの埋葬では、骨がばらばらにならないように、たとえ生きていた人でも立ち上がれないほど、きつく布が巻きつけられた。ラザロがその布を巻かれたまま立ち、歩いたことは、出来事の奇跡的な性質を際立たせている。イエスの場合(20・5・7)と異なり、ラザロは体も顔も布で包まれたままであった。視界も覆われていた彼は、ただ彼を呼ぶ「神の子の声」を頼りに出てきたのである。

参考図書 10月30日分と同じ。



## 聖書

ヨハネ11・17〜44

## タイトル

信じたら見えるよ！神様の栄光が

## 暗唱聖句

もし信じるなら神の栄光を見るであらうと、あなたに言ったではないか。

ヨハネ11・40

## 目標

信仰によって神の栄光を見る者となる。

## 導入

(和田治)

「絶対に癒<sup>い</sup>されるって信じてたのに…」。もし、きみにとつてすごく大切な人が、祈りのかきも無く怪我や病で死んでしまったら、イエス様にどんなふうに言いたい気持ちになるでしょうか…？

## イエス様は遅すぎたの…？

「もしあなたが、あなたさえここにいて下さったなら、ラザロは死なずにすみましたのに…！ラザロのお墓の近くまで来られたイエス様に、マルタは思わず訴えました。遅すぎた…もう手遅れです…なぜもっと早く来てくれなかったの!?でも、マルタは続いてこう言ったのです。「イエス様、あなたがどんなことをお願いになっても、神様はかなえて下さいますよね、私は今でもそう信じています！」と。そんな彼女にイエス様はおっしゃいました。「わたしはよ

みがえりであり、命である。わたしを信じ、私につながっているなら、その人の命は終わることがないのだよ。あなたはこのことを信じるか？」「主よ、信じます！あなたこそただひとりの救い主、神の御子であると信じております」。そして、家にいた妹のマリヤを呼びに行きました。マリヤはイエス様のところに来ると足元に泣き伏して、震える声で言いました。「主よ。もしここにいてくださったなら、私のラザロは、ラザロは死ななかつたでしょうに…」お墓の前に案内されたイエス様の目から大粒の涙が止めどもなく流れ落ちていきます…。マルタやマリヤの悲しみを、誰よりも深く分つておられるイエス様の涙でした。

## イエス様には別のご計画が!?

実はイエス様は、わざと、ラザロが死んでから四日もたつたところにここに着くように、来られたのです。そう、病気のラザロを癒してあげるよりもっと素晴らしい別のご計画があったのです。洞窟のようなお墓に入ると、ラザロが葬られている場所の前に石のふたがしてあります。「石を取り除けなさい」。イエス様のお言葉に、マルタがあわてます。「でも、もうひどいにおいですわ。なにしろ、死んでから今日で四日ですもの」。あれれ？イエス様を信じているはずのマルタ。でも、実際、くさっていくラザロの死体のお

11月

## 20日 礼拝メッセージ例

いをかぎながら、「もう死んでしまったんだから、どうしようもない」っていう気持ちを抑えられなかったのですね。みんなはどうでしょうか。イエス様を信じてはいる。けれども、祈っていたのに答えられなかった。一生懸命祈ったけれど、実際には願っているのと逆になっている…そんな時、信じる思いが萎えてしまうことって、ありますよね。鍵は…『信仰』です！

そのときです、イエス様は力強くこうおっしゃいました。「もし信じるなら神の栄光を見るであろうと、あなたに言ったではないか！そして天を見上げ、こう祈られたのです。「父よ。願いを聞いてくださってありがとうございます。もちろん、いつも聞いてくださることはわかっています。ただ、皆にも信じてもらいたいからこうして祈っているのです」。それから大声で「ラザロよ、出て来なさいっ！」とお命じになりました。するとどうでしょう。布でぐるぐる巻かれた姿のまま、ラザロが出て来たではありませんか！ハレルヤ！これらの出来事を、聖書を通して知っている私たちに、イエス様が願っておられることがあります。それは私たちがイエス様を心から信じる『信仰』を持つことです。「たとえ祈りが聞かれなくても、そこには意味がある。もつとすばらしい神様のご計画があるんだ。だから、イエス様

を信じ続けよう！」って。信じ続ける先にあるのは、「神様の栄光を見ること」、つまり、「ああ、神様って本当に素晴らしいお方なんだ！」って心から主をほめたたえることができるような体験なんです。

## 例話

内村鑑三の娘、ルツ子が病気になりました。彼は愛する娘の癒しを必死に神様に祈りました。必ず癒される、と信じて！しかし、ルツ子は死んでしまいます、19歳の若さで。臨終の三時間前の聖餐式では、顔面いっぱいに喜びを表して「感謝、感謝！」を連発し、最期に「もう行きます」と言つてすつと天に旅立ちました。まさにキリストの花嫁として！不思議な安心と喜びに満たされた鑑三は「これはルツ子の葬儀ではない。ルツ子は天に嫁入りしたのであり、今日はルツ子の結婚式である」と言つたのです。埋葬の時、彼は、「ルツ子さん、万歳！」と叫びました。そこには、悲しみを突き破るような神様の栄光が確かにあったのです。私たちも信仰によつて神様の栄光を見せていただきながら進んでいきましよう！

♪信仰はなんてすばらしい♪  
(ふくいんこどもさんびか2 25)



# 聖書 イザヤ9・1-7 テーマ 預言されたメシヤ誕生

## 序論

(金井信生)

今日からアドベント(待降節)に入ります。イザヤによって七百年以上も前から預言されていたキリストの誕生は、神の救いのご計画の実現でした。

## 一、大いなる光の到来

イスラエルの国はソロモン王の後に、北王国イスラエルと南王国ユダに分かれました。以来、周辺の大国からの圧迫に苦しめられ、もともと四国ほどの大きさしかない国が、さらに領土を失っていきます。ついに北王国イスラエルはアッスリヤに滅ぼされ、住民は捕え移されてしまいました。

神の民が、今、光を失って暗やみの中にいます。しかしイザヤは、神がご主権とあわれみをもって、救い主を送り、くびきから解放してくださることを預言します。

「くびき」は敵に負わせられています。神の祝福よりも周が教えに聞き従わなかったからです。

辺の国々の繁栄をうらやみ、多くの偶像を導きいれました。その結果、虚栄や偶像礼拝のために重荷が加わり、自分から負わなくてもよくくびきを負ってきたのです。

ですから、大いなる光とは、ただ敵が追い払われたり、領土や繁栄が取り戻されることだけではありません。神に背いて暗黒のうちにいる人の心の中に差し込む、恵みの光、命の光です。神を見失っていた人々を、神に立ち帰る道に導く光なのです。

## 二、みどりごの誕生

救い主は、みどりごとしてこの世に來られます。英雄や超人ではありません。あえて無力な姿をもって來られるのは、人口の多さや領土の広さ、また経済的な繁栄や軍事力の大きさに目を奪われやすい私たちに、ただ神に頼る信仰を呼び起こさせるためです。実際にイエスは、ただみどりごとしてただでなく、ベツレヘムの家畜小屋で飼う葉おけに生まれてくださいました。

イザヤの時代に前後して、北にはアッスリヤやバビロンが興りました。また南ではエジプトが盛衰を繰り返しながらも、常にイスラエルに影響を与えています。みな

強大な力を誇り、イスラエルを踏みにじつてきました。歴代の王たちも、いつも周辺の国の顔色をうかがっていました。

しかし、神がひとたび乗り出されれば、人間の力は何ほどのことありません。7章で「インマヌエル（神われらと共にいます）」と名付けられる男の子の誕生が預言されています。人の目に映るものではなく、神が共におられることの平安と幸いを、みどりごの存在はわたしたちに教えています。

みどりごの名が四つ、ここに記されています。全知全能であり、自ら完結しておられる神の姿です。そしてこの神が私たちの父として責任と関わりを持つとうとしておられることを示します。その目的は平和の実現です。

### 三、神の平和の実現

救い主が世に來られる大きな目的は、平和の実現です。まず、罪の赦しによって神と人の関係が回復されます。偶像やこれを慕う心が取り除かれ、神の恵みに満たされることによって、人と人との争いが鎮められていきます。ただイスラエル一国の救いと平和だけでなく、世界的な

平和の実現です。

世に來られたキリストは、上に立つお方ではなく、人々に仕え、一人一人を愛して声をかけられました。神と一人の関係が正しくされることによって、神の国がこの世に広がっていくためです。

神の救いの計画が実現されるのは、神ご自身の熱心があるからです。今も神は同じ熱心をもって私たちに臨んでおられます。

この熱心は、正義が曲げられていることへの義の怒りと、小さな者が失われ、滅ぼされそうになっていることへの深い愛からでています。神の熱心が働き出すとき、人間の不信や抵抗は吹き飛ばされてしまいます。まず私たちが神のご計画に立つて、イエス・キリストを救い主と信じましょう。「やみがなくなる」、「光榮を与えられる」、「喜びが大きくなる」、これらの言葉が実現していきま

### 結論

神が私たちのために計画し、この世に生まれさせてくださった救い主キリストを信じましょう。

## 研究資料

(中島啓二)

生ける神に背を向け、さばきを警告されても悔い改めようとせず、かえって「神をのろ」(8・21) った北王国イスラエルは、ついに「暗黒に追いやられ」(8・22) るに至った(大半の領土喪失と捕囚)。今やイザヤの子らの名に込められた預言のうちの「マヘル・シャル・ハシ・バズ(分捕物は素早く、獲物はさつと持ち去られる)」(8・1) が成就した。しかしそんな「暗やみ」(2) の中にもイザヤは「大いなる光」(2) を見ていた。一方が成就したならば、他方の「シャル・ヤシユブ(残りの者は帰って来る)」(7・3) も必ず成就する。そう確信していたに違いない彼に、神は「インマヌエル」(7・14) に続く、新しいメシヤ像(6・7) をお示しになったのである。

## テキスト

## 1 ゼブルンの地、ナフタリの地

これらの地(後述のメギドに該当)は、BC 734〜732年のアッシリヤの侵入(列王下15・29他)で最大の打撃を受けた地域であった。すなわち反アッシリヤの動きを見せた北王国に対し、テグラテピレセルは、その地を含む北王国領土の大半をアッシリヤに

併合し、一部住民を捕らえ移したのである。北王国に残されたのはサマリヤを中心とした丘陵地帯だけであった。アッシリヤに併合された地域は、ドル、ギルアデ、メギドという行政区に分けられた。そのそれぞれが **海に至る道、ヨルダンの向こうの地、異邦人のガリラヤ** に該当する。なおマタイは、イエスのその地域での宣教活動が、預言の成就であることを示している(4・12〜17)。

## 2 大いなる光

第一義的にはアッシリヤの圧政からの国土と民の解放を意味するが、預言が究極的に指し示すものは、言うまでもなく罪の支配からの人類の解放と、その解放をもたらす救い主である。「すべての人を照すまことの光があつて、世にきた」(ヨハネ1・9)。見た…照つた預言者の完了と呼ばれ、預言書によく見られる。実際は将来のことであるが、預言者の目には既に起こったことのようにはっきり見えているのである。

## 4 くびき

発掘されたアッシリヤの碑文では、他国を征服することを「アシウル(アッシリヤの神)のくびきを課す」と表現している。**ミデアンの日** 10・26に「むかしミデアンびとをオレブの岩で撃たれた時」とあり、ギデオンと300人の精鋭による戦い(士師7章を指すと考えられる。

それは人間の力によらず、神の力に徹底的により頼んだことから与えられた勝利であった。アッスリヤからの解放も、それが指し示す人類の救いも、全く神のみわざとして行われることなのである。

**5 歩兵のはいたくつ** アッスリヤ兵は革製の編み上げブーツを装備していた。**血にまみれた衣** テイル・バルシブ遺跡の壁画によると、アッスリヤの軍服は赤だったようである。その色と戦いの悲惨さの両方を表現しているのかもしれない。軍靴や軍服が全て排除されることは、神の勝利が完全な平和をもたらすことを象徴的に示している。

**6 ひとりのみどりこがわれわれのために生れた** 「おとめがみごとって男の子を産む」(7・14)と預言されている男の子を指す。その子は他でもなく、「われわれのために」お生まれになるのである。**靈妙なる議士** 「不思議な助言者」(新改訳)。古代オリエントでは王に助言を与える議官がいたが、この方は王であり同時に助言者であられる。言い換えれば助言者を必要としない王である。**大能の神** 救い主が神ご自身であるという驚くべき預言。**とこしえの父** 「父」は神のその民に対する関係を指す(詩103・13参照)。救い主は「自身の民にとってあわれみに満ちた保

護者であられる。**平和の君** 〔シヤロームは平和の意で、健康、平安、健全、安全といった、欠けるところのない十全性を意味する。救い主はそのシヤロームの状態を、神と人との間に樹立してくださる。するとそのシヤロームが人と人との間、さらに個人の生活の中にも成立していくのである。〕

**7 ダビデの位に座して** 救い主はダビデの子孫として生まれるとエレミヤも預言した(23・5く6)。その通りイエスは、ダビデの末裔であるヨセフの子として誕生された(マタイ1・1)。**万軍の主の熱心がこれをなされるのである** 人間的な目で現実を見るならば、イスラエルの回復、さらにそれが指し示す人類の救いは実現不可能に思える。しかし神の率先と神の熱心によってなされるならば、必ず成就するのである。人間的な知恵や同盟に期待し、神により頼むことなく滅びを招いたことへの反省と警句でもある。「神には、なんでもできないことはありません」(ルカ1・37)。**参考図書** 注解書 鍋谷堯爾(新聖書注解・旧約3)、J. Oswalt (NICOT), J. Watts (Word)。その他 The IVP Bible Background Commentary: OT.

## 聖書

イザヤ9・1〜7

## タイトル

預言されたメシヤの誕生

## 暗唱聖句

ひとりのみどりごがわれわれのために  
生れた、ひとりの男の子がわれわれに  
与えられた。

## 目標

私たちのために生まれた救い主キリストを信じる。

## 導入

(水野晶子)

今年もクリスマスを待つアドベントを迎えました。アドベント・クラッツのローソク1本目に火がつけられました。今年は東日本に大きな地震があつて、日本全体がとても暗い気持ちになっています。一人一人の心に希望の灯がともされることを祈りながら、クリスマスに備えましょう。

## 大いなる光

イエス様がお生まれになる九百年ほど前、イスラエルの国は北王国イスラエルと南王国ユダに分かれました。イスラエルの人々は真の神様を忘れ、人間が作った偽りの神様を拝み、政治もでたらめで、周りの国々から脅かされ、人々も悪い事を平気でするようになっていました。ついに、

アッシリヤという大きな国が攻めてきて、滅ぼされ、民は連れ去られたのです。神の民はまっ暗闇の中に、突き落されました。

しかし、神様は神の言葉伝える預言者イザヤを通して、暗闇の中にいる人々に大いなる光が与えられること、すなわち、光であるイエス様が誕生するすばらしいお知らせをされました。あたかも生まれているかのように伝えられました。それほど確信をもって語られました。イエス様の誕生は、この様に七百年前に約束されていたのです。

## すばらしい救い主

私たちを苦しみや悲しみから助け出してくださいる救い主とはどのようなお方なのでしょう。アニメのヒーローのように登場したのでなく、神様でありながら、ひとりのみどりご(赤ちゃん)として、しかも家畜小屋の飼い葉おけの中に生まれてくださいました。

この方は「霊妙なるれいみょうなる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君」であるとイザヤは伝えました。それは、①私たちが困った時、迷った時にどうすればよいか教えてくださる方、②人間にはできない奇跡やすばらしい働きをする方、③父親のように私たちを子どもとして守って、いつまでも

11月

27日

## 礼拝メッセージ例

愛してくださる方、④私たちの暗く汚れた心に光を与え、平和をくださる方です。今まで四回にわたって学んできたイエス様の姿ですね。迷いやすい私たちを導いてくださる羊飼いなるイエス様。生まれつき目の不自由な人の目が、見えるようになり、死んだラザロがよみがえる奇跡を行った、力あるイエス様。

姦淫<sup>かんいん</sup>の現場で捕まった女のひととそれを訴える人の汚れた心に光を与え、罪を赦<sup>ゆる</sup>されたイエス様。

罪深い人間のために十字架にかかり、神様と人間の仲を取りもって、本当の平和を実現し、神の国がこの世に広がっていくために来られたイエス様。こんなすばらしい救い主が来てくださったのです。

## 例話とまとめ

あるトンネルの工事で、入口から少し入ったところで土が崩れ、中に閉じこめられてしまったことがありました。ところが八日目にみんな助け出されたのです。それはリーダーがしっかりといてみんなを励まし、外から来る救援隊を待っていたからです。まっくらな中で、お腹はすくし、苦しいし、いつ助けられるかわからないので、いつそ死んでしまいたいと言いつつも出てきました。その時リーダ

ーが、「今、私たちが土の下敷きにならないで生きていくということは、神様が守っていてくださるからだ。自分勝手に死ぬなんて言うことは、今私たちを生かしていてくださる神様に申し訳ないことです。神様を信じなさい」と叱りました。そんなことが度々あつて、とうとう八日目に外から救援隊が土を掘つてきて、ポカッと最後の土がとりのけられ、外からの光がまっくらだったトンネルの奥にキラッと差し込みました。生き埋めになっていた人たちは、その光を見た時、思わず「バンザイ」といつて抱き合つて泣きました。光を見たことは、もう救われたと同じことでした。それは、外から崩れた土を破つて救援隊が到着したからでした。

(キリスト教例話集より)

神様は罪ゆえに滅びるしかなかった私たちを、トンネルの救援隊のようにひとり子イエス様を送り、救い出してくださいました。このアドベントの時に、まだ、暗闇の中にいるお友だちに救いの光を届け、大きな喜びと平和を与える救い主イエス様を信じましょう。

♪主をまちのぞむアドヴェント♪

(こどもさんびか 改訂版 65番)





聖書 ルカ1・8〜22、57〜66

テーマ 祈りの答え

## 序論

(金井信生)

キリストの御降誕を待ち望むアドベントに入っています。私たちは祈りの中で、さまざまなことを待ち望みますが、祈る心において十分であったか、ザカリヤの姿から振り返らせられます。

## 一、祈りと信仰

ザカリヤのもとに現れた御使いは「あなたの祈りが聞き入れられたのだ」と告げています。子どもが与えられるように、とザカリヤは祈ってきたからです。当時のユダヤでは、子どもが多いことが神の祝福のしるしだと考えられていました。現代のように、子どもがいてもいなくてもどちらでもいいと考える人が出てくるような時代とは違います。祭司として敬われていたザカリヤとエリサベツにとって、子どもがなかなか与えられないことは大きな痛みでした。そのザカリヤという名前も、「主は覚えておられた」という意味ですから、これまでは重荷だったでしょう。

しかし、祈りは聞かれ、主の答えが届けられました。ところが、御使いの言葉に対してザカリヤは信じ受け入れることができませんでした。年月が経ち、夫婦は老いていたからです。

ザカリヤとエリサベツ、年は取っていましたがおそらく100歳と90歳ということはなかったでしょう。アブラハムとサラ夫婦に主がイサクを与えられたことを考えれば、決して不可能ではありません。

聖書の言葉を読んでも、同じ神が今も生きて働いておられることを、私たちも信じているでしょうか。アブラハムの神は私の神だと、祈りの中で申し上げているでしょうか。

信仰がなくては祈り始めることはできません。そして祈り続ける中で信仰は養われ、強められていきます。

## 二、祈りは聞かれる

御使いは主のそばにいて、そのみわぎをよく見ていますから、「祈りが聞かれたのだ」と告げ、さらに生まれる子に与えられている、主からの使命についてすらと述べていきます。しかし、ザカリヤの耳に、後半の言葉は

入っていないでしょう。「子どもが生まれる?」、驚きで心がいっぱいになってしまいました。

主は私たちの祈りをすべて聞いておられます。この待降節、私たちは旧約の聖徒たちがメシアを待ち望んで祈っていたように、主キリストの再臨を待ち望む祈りを新たにします。

イエスは、「失望せずに常に祈るべきこと」(ルカ18:1)を、不義な裁判官に対するやもめの執拗な祈りのたとえを通して教えられました。その終わりの言葉は「しかし、人の子が来るとき、地上に信仰がみられるであろうか」です。私たちも信仰をもつて祈り待ち望むよう命じられています。旧約時代の、長い救い主待望の祈りは聞かれ、キリストは世に来られました。再臨待望の祈りは聞かれ、やがて再びキリストはこの世に来られます。私たちの祈りも、この大きな神の救いのご計画の中に置かれ、聞かれています。「祈りは聞かれる」。単純に信じ、経緯も結果も委ねながら祈り続けましょう。

### 三、祈りのゴールは主への賛美

不信仰のために口がきけなくなっていたザカリヤの口が

開かれたとき、まず賛美があふれ出しました。

その賛美は、ただ子どもが生まれたことの感謝と喜びだけでなく、これからの生涯の使命をはっきり受け止めてささげられています。

祈りは神との対話です。私たちは、長電話して一方的に切るようなことをしていないでしょうか。

「主の力を信じてるから、どんな時もあきらめない。祈りはすべて聞かれてる、だから感謝しよう、さんびしよう」(ブレイズ・ワールド)。

祈りが聞かれたから感謝し、賛美しよう。初めはそれでもいいかもしれませんが。でも、だんだんと信仰が養われ、育てられる中で、「なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい」(マルコ11:24)と実践し、主はすでに聞いておられます、と先取りの賛美をささげるものにならせていただきますように。

### 結論

祈りは主が聞いておられ、主の全知全能の御手の中で答えられていきます。その答えを素直に受け止める信仰に立ちましょう。

## 研究資料

(宮澤清志)

先週以降、アドベント(待降節)とクリスマス礼拝の教案は、ルカによる福音書を通してみ言葉が語られる。ルカの降誕物語は、3つの顕現(1・11、26、2・9)、3つの告知(1・13、17、28、37、2・10、12)、3つの預言的賛歌(1・46、55、68、79、2・29、32)より成っている。

## テキスト

**8、10 その組** アビヤの組(5)。祭司には24の部族があり、各部族は半年ごとに一週間ずつ神殿で奉仕し、くじ引きによつて奉仕する組が決められていた。香をたくことは一生に一度あるかないかの奉仕であり、くじ運によつては一生に一度もこの務めが与えられない祭司もいた。

**13 ザカリヤ** 「主は覚えておられた」という意味。**エリサベツ** 「わが神は誓い」という意味。**ヨハネ** 「主はいつくしみ深い」という意味。

**13、16** この箇所は、ヨハネがナジル人であるということを示唆している。ナジル人については、民数記6章、士師13・4、5、サムエル上1・11等参照。ヨハネは終生、その存在そのものが「主の前」にあることを示している。

**17** ユダヤ教徒は、エリヤが文字通り肉体をとつて再来すると信じていた。しかし、ヨハネは、このような意味でのエリヤの再来ではない(ヨハネ1・21)。彼は、「エリヤの霊と力で」働く者であり、「受けいれることを望めば、この人こそは、きたるべきエリヤなのである」(マタイ11・14)。**18 どうしてそんな事が** 新改訳聖書では「何によつてそれを知ることができましようか」とあるように、不信の問いと言えるであろう。彼はしるしを求めて、この問いを發したのである。

**19、20 ガブリエル** 神は力強い、という意味。聖書中、名前で呼ばれている御使いは、このガブリエル(19、26、ダニエル8・16、9・21)とミカエル(ダニエル10・21)だけである。このガブリエルがザカリヤに伝えたのは、喜ばしい知らせであつた。しかも、ザカリヤにとつては長年の祈りが聞き入れられた知らせでもあつた。しかし、ザカリヤはそれを信じるのができなかったのである。**口がきけなくなり** ザカリヤの口がきけなくなったのは天罰によると考えるべきではない。そうではなく、神の約束が成就するまでの間、ザカリヤは主の前に静まる必要があつたからである。

57 57節からは、いわゆる「ベネデクトゥス」といわれるザカリヤの預言歌(67く79節)の導入となる部分であり、説教準備に当たってはこの箇所も繰り返し目を通しておきたい。

57 月が満ちて ルカがしばしば用いた表現。特に、神の約束の成就という意味合いにおいてこの言葉が用いられていることがしばしばある(1・23、2・6、21く22など)。

58 大きなあわれみを 直訳すると「あわれみを大きくされた」(創世記19・19、サムエル上12・24)。エリサベツは妊娠後、引きこもっていた(1・24)。また、それゆえ近所の人々もこの妊娠を知らなかったと考えられる。またエリサベツの出産は、男子の出産であり、また不妊で高齢の出産であったがゆえに、一層この出産が喜ばしい出来事となったのであろう。

59 ユダヤ人は、その生まれた男の子に、アブラハムの故事にちなんで、生後8日目の割礼と同時に命名することが多かったようである(創世記17・5、12、21・3く4、ルカ2・21など)。また、パレスチナにおいては、名前は説明的な意味合いを持っていたと言われている。あるいは「名は体を表す」という言葉のとおり、旧約において、名はしばしば重要な事

件の記念、またはその人物の使命や役割を啓示していた。

60 ヨハネ 「主は恵み深い」という意。聖書では、本来この名の由来を知らないはずのエリサベツが、なぜ知っていたのかは記されていない。ザカリヤが神殿内での出来事と御使いの告げた事柄を、自らの悔い改めと共に予めエリサベツに書いて知らせたのか、あるいはエリサベツにも御使いが現れたのかは、定かではない。

61 63 合図で(62)とあるが、「身振りで」(新改訳)、「手振りで」(新共同)とあるところから、ザカリヤは、口がきけなかっただけではなく、耳も聞こえなかったことも推測される。口がきけない(ㇿ)コフオス)とは、聖書の別の箇所では、耳が聞こえない、とも訳されている(？22他)ことからそう推測できる。

64 神をほめたたえた ザカリヤの口が開かれた瞬間、まず彼の語った言葉は、神殿内での状況の説明ではなく、神への賛美だったことは注目されることである。ザカリヤは、「不思議」の経緯やヨハネの名の由来を語ったのではなく、ただひたすら神をほめたたえたのである。この言葉は、後のベネデクトゥス(68く79)へとつながる。

参考図書 12月11日の参考図書に同じ

## 聖書

ルカ1・8〜22、57〜66

## タイトル

想定外のできごと

## 暗唱聖句

恐れるな、ザカリヤよ、あなたの祈が

聞きいれられたのだ。ルカ1・13

## 目

祈りが聞かれたとき、素直に受け止める信仰を持つ。

## 導入

(松浦みち子)

アドベント第2週を迎えました。救い主の誕生は何百年も前から預言されていたことを学びましたね。しかし、ほとんどの人はその事に心を留めず、ごく一握りの人だけが祈り待ち望んでいる状態でした。そのような時、想定外の出来事を通して、神様は人々の心の扉を開けようとなさったのです。「想定外」は、今年3月の東日本大震災以来、何度も耳にしてきた言葉ですね。安全だと言われていた原子力発電の危険がさらけ出され、日本のみならず世界の原発の歴史もくつがえされかねないような出来事となりました。救い主の誕生の預言を忘れて生きる人々に、いったいどのような想定外のことが起こったのでしょうか。

## 祭司ザカリヤとエリサベツ

イスラエルにザカリヤという祭司(神様に仕えるお仕事をする人)がおりました。奥さんの名前はエリサベツです。二人とも心から神様を愛し、そのお言葉を残らず守るという正しい夫婦でした。二人はとても仲良く暮らしていました。でも二人には、一つだけ悲しいことがあったのです。それは子どもがいないことでした。若い時から「赤ちゃんを与えて下さい」とお祈りしていましたが、祈りが答えられずにととう二人は年を取ってしまいました。もう、子どもはのことはずっかりあきらめていました。ある時、ザカリヤが神様のお仕事をしていた時、神殿に入って特別に香をたくという当番がくじ引きで当たったのです。この仕事は大変な名誉ある務めで、祭司の一生の仕事の内、一度あるかないかのすばらしい務めでした。ザカリヤは香をたくために神殿に入って行きました。人々は祝福の祈りをしてもらうため、ザカリヤが出てくるのを今か今かと外で待ちました。ところが想定外のこと、神殿の中で起こったのです。

## 主の使いの知らせ

ザカリヤが神殿で香をたいていると、突然、主のみ使いが現れました。ザカリヤは驚き、恐れて震えていると、み使いは「恐れることはありません。あなたの祈りは聞

12月

## 4日 礼拝メッセージ例

き入れられました。」と声をかけました。そして「ザカリヤよ、あなたの奥さんエリサベツは男の子を産むでしょう。その子をヨハネと名づけなさい」と言うのです。そして「その子は特別に神様に選ばれた子です。そして大きくなるとイスラエルの人々に救い主イエス様のことを知らせる人となるでしょう」。ザカリヤはびっくりして「どうして、そんなことが起こるでしょう。私はもうこんな年寄りで、エリサベツもおばあさんです。子どもなんて、もう、とても無理です!」と答えました。するとみ使いは「私は神様から遣わされたガブリエルです。あなたにすばらしい知らせを告げるために来たのに、どうして信じないのですか。あなたは神様の言葉を信じなかったのです。神殿の外で待っている人々は、いつまでたってもザカリヤが出てこないでハラハラしています。ついに出てきました。顔面蒼白、フラフラです。『ザカリヤ先生どうしたんですか?』かけよって体を支えましたが、身振り手まねするだけでもう口がきけなくなっています。」

## ヨハネの誕生

家に帰ったザカリヤは、エリサベツにことの次第を伝え、

神様の約束を信じて待ちました。やがて男の子が生まれ、親戚や近所の人々がお祝いにやってきました。「赤ちゃんの名前は?」と聞くと、エリサベツは「この子の名前はヨハネです。」「えっ、そんな名前聞いたことない」、人々は口々に言います。父親のザカリヤに尋ねると、書き板を持つてくるよう合図しました。すると「その名はヨハネ」と書きました。あつ! 書くと同時に、ザカリヤは口がきけるようになり「神様感謝します! ハレルヤ! ハレルヤ!」と叫びだしました。人々は驚き「この子は大きくなったらどんな人になるのだろう」と不思議がりました。ヨハネは成長し、救い主イエス様が来られる道を整え、みんなに救い主を迎える心の準備をさせる大事な働きをする人になったのです。

神様は人の思いを超えて素晴らしいことをなして下さる方です。「わたしに呼び求めよ、そうすれば、わたしはあなたに答える。そしてあなたの知らない大きな隠されている事を、あなたに示す」(エレミヤ33:3)。折りの答えを信じて進みましょう。

♪いざうたえ、いざいわえ♪ (讃美歌 108)



## 聖書 ルカ1・26〜38

## テーマ お言葉どおり

## 序論

(金井信生)

救い主キリストをこの世に生まれさせるために神が選ばれたのは、ひとりの女性マリヤの信仰でした。御使いの知らせは、マリヤを戸惑わせるものです。その言葉通りに進めば、予定されていた結婚が中止になるどころか、死罪の可能性もあります。しかし御使いの言葉に、マリヤは〈お言葉どおりこの身に成りますように〉と答えました。

## 一、お言葉の真実を知っているから

聖書の歴史を振り返ると、神がなされることは、人間の知恵や理解を超えていますから、驚かされることばかりです。常識的にただ信じられないというだけでなく、従っていこうとすれば、苦しみが待ち受けているのはわかっており、涙の覚悟も必要かもしれません。しかし、約束されているのは永遠に渡って豊かな神の祝福です。

マリヤは、46節からの賛歌にも表れているように、旧約聖書の言葉をよく心に留めていました。その中には詩

篇84・6の「彼らはバカ（涙）の谷を通つても、そこを泉のある所とします」や、詩篇16・6の「測りなわは、わたしのために好ましい所に落ちた。まことにわたしは良い嗣業<sup>しきよ</sup>を得た」、このような言葉もあつたことでしょう。

またヨブの、「われわれは神から幸を受けるのだから、災いをも、うけるべきではないか」（ヨブ2・10）と妻を諭した言葉もあります。

神が与えてくださることを、み言葉によつて喜び受け取る、そこにマリヤの信仰がありました。

## 二、神が共におられる

御使いガブリエルがこれから起こることを告げた言葉の内容は、マリヤが身ごもつて男の子を産むということ、その子が神の子、救い主であり、大きな働きをすることです。しかしマリヤにとつては、まだヨセフと一緒にいない自分が身ごもることへの心配がまずありました。ガブリエルが〈おめでとう〉（喜びなさい）と言つたのは、子どもが生まれることや、その子どもが偉大な存在になることではありません。〈主があなたと共におられることです。神は、私たちが心配しやすく、不安に陥り

やすいことをご存知です。旧約において、ご計画を示される神は、用いようとする者に何度も「わたしが共にいる」と語りかけて、力づけてくださいました。

どんな人でも、だれからも理解されない寂しさや、何を頼りにしたらよいかわからなくなる不安をおぼえる時があります。その時に共にいてくださるのが、私たちより大きく重い痛みを経験された主キリストです。マリヤは、お言葉に従ってキリストを生むことにより、「神が共におられる」恵みを知ることができました。この恵みは、無力な私たちを力づけて、本来、人にできないことをさせてくださる力を与えます。

### 三、自ら主を喜ぶ

マリヤが答えた、〈お言葉とおりの身に成りますように〉との言葉は、告げられた言葉に対して思い悩んだり不安があつても、神様のご計画に従うほうを選ぶということです。それはこの世での苦しみから逃れるよりも、神様の御顔を失うことのほうが魂にとって苦しみであるからです。マリヤからお生まれになられたキリストも、十字架の痛みにまさつて、父なる神が御顔を背けられたこと

に苦しめました。

神の祝福の御手を遠ざけていたのは、私たちの罪であり悪でした。しかし愛に満ちた神は、私たちのすべての罪を御子キリストに負わせて十字架に捨ててください、わたしたちの罪を赦して（ゆる）くださいました。マリヤの信仰は、「父よ、…わたしの願いではなく、みこころが成るようになしてください」（ルカ22・42）、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」（23・46）と祈られたイエス様をこの世に生み出すために必要な、神の喜ばれる信仰でした。

「お言葉とおりが形に現れるのが礼拝であり献身です。神の言葉を聞き、自分のからだを「神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物として」（ローマ12・1）ささげる霊的な礼拝、それがマリヤの応答に現れています。

わたしたちも神の言葉を、恵みの知らせとして受け入れて喜びましょう。人間の思いを越えた神のすばらしい救いの御業を見、豊かな祝福を受けることができます。

### 結論

神がみ言葉を通して示される御計画に、祝福が約束されていることを喜びましょう。



## 研究資料

(宮澤清志)

この記事は、御使いの顕現<sup>げんげん</sup>とマリヤへの告知を柱としている（先週の研究資料の冒頭参照）。

この箇所においては、先週のエリサベツの懐妊の箇所ももう一度思い起こしつつ備えたい。ザカリヤの箇所においては、ヨハネの誕生は彼の願ひへの神の答えであつて、その神の答えへの不信には、口がきけなくなるといふ神の出来事が起こつた。それに対して、本書におけるマリヤの懐妊においては、一方的に神の側からの働きかけがなされ、彼女の側からは信仰による受け入れがなされているのである。

## テキスト

**26 六か月目に** エリサベツがバプテスマのヨハネをみこもつて六か月目（5〜25節）。

**27 ヨセフ** 「主は加えたもう」という意味。ダビデ家の末裔<sup>まがい</sup>で、ベツレヘム出身であつた。大工を家業とし、ガリラヤのナザレに定住していた（2・4、マタイ1・18、13・55）。ヨセフの系図は聖書中2カ所登場する（マタイ1・1〜、ルカ3・23〜38）。メシヤはダビデの家系から出ることが、旧約の時代から預言されていた（サムエル下

7・12〜13、イザヤ9・6〜7他）。いいなづけ ユダヤの「いいなづけ」は、事実上法的な「妻」である。

**28 おめでとう** 直訳すると「喜びなさい」となる。ただの挨拶の言葉ではなく、喜びや恵みの伴つた挨拶<sup>あいさつ</sup>の言葉として用いられる。同時にこの喜びや恵みは、聖書では苦難を伴つた喜び、あるいは苦難の最中の喜びとして描かれている（ヨハネ14・28、コロサイ1・24他）。マリヤがこの御使いの申し出を受けることは、人間的にはこの上ない苦しみを受けることに他ならない。

**30** ここにきて、28節の「恵まれた女」といふ言葉が具体化される。御使いは、マリヤに神のご計画を打ち明けたのである。注意すべきは、この神のご計画の中で、天使は彼女の腹を借りたいというお願いに來たのではない。有無を言わず、告知に來たのである。しかも、この場合の神の言葉を受け入れることは、ヨセフの愛も世間の信用も、場合によつては自らの命も失いかねないほどの申し出であつた（28）。しかしマリヤはその申し出を受け入れたのである。マリヤはこの信仰によつて讃えられたのであろう。

**恵み** 先週のザカリヤに対する第一声が「あなたの祈が聞きいれられたのだ」（13）という、祈りの結果としての成就

であつたことは対照的に、マリヤに対しては、一方的な神からの選びの結果としての語りかけとなつて注目したい。

31 イザヤ7・14の預言の成就。マリヤの子が真の神であり、また真の人であることを示す。

32〜33 ダビデ契約の成就(サムエル下7・12〜16、イザヤ9・7他)。

34 どうして この語を直訳すると「どのような方法で」となる。マリヤはあくまで方法を尋ねたのであつて、決して疑いの言葉ではない。一方ザカリヤの「どうして」(18)とは、「何によつて」(新改訳、新共同訳他)ともあるように、しるしを求める疑問文である。結果、マリヤは次節においてその方法を御使いによつて懇ろに語られ、ザカリヤは口がきけなくなつたのである。あるいはこの両者の相違は、ザカリヤが祭司という職についている者であつたのに対し、マリヤはガリラヤのいなか娘であること、またザカリヤが人生経験の豊富な老人であつたのに対して、マリヤがまだ少女であつたことにも由来するであらう。

35 聖霊があなたに臨み 前節のマリヤの問いを受けて、この懐胎が聖霊によるものであることを強調する。マリヤの処女懐胎は聖霊の創造のわざであり(創世記1・2)。

主の霊の創造行為である(エゼキエル37・1〜14)。おおう 直訳は「陰を落とす」「陰がかかる」という意味であり(使徒5・15)、旧約では、主の栄光の雲(出エジプト40・35)に、そして新約では変貌山における栄光の雲(マタイ17・5)に現れる。いと高き者の力(マテユナミス)ここからダイナマイトという言葉が派生した。人間の想像をはるかに超えた神の力である。

36 エリサベツの懐胎は、マリヤの使命、すなわち神の子の母となるという使命のしるしでもあつた。しかも、エリサベツの懐胎が、神の超自然的な介入による懐胎であることを強調することによつて、マリヤの懐胎も強く神の超自然的な懐胎であることを示しているのである。

37 創世記18・14の引用。こと(ギ)レーマ 次節の「おことば」と同じ言葉が用いられており、言外に「あなたの言われたこと」という意味が含まれている。

38 はしため 文字通りには「女」奴隸の意味。お言葉とおり… マリヤのこの服従のゆえに、彼女は理想的な女性の典型とされたのである。

参考図書 A.T.Robertson, *Wood Pictures in the New Testament Volume II The Gospel According to Luke* (Broadman) 他

## 聖書

ルカ1・26〜38

## タイトル

神に従ったマリヤ

## 暗唱聖句

わたしは主のはしめです。お言葉どおりこの身に成りますように。

ルカ1・38

## 目標

神のご計画に従って従順に生きる者となる。

## 導入

(松浦みち子)

イエス様の誕生を待ち望むアドベント第3週を迎えました。名古屋にはフィギアスケートで世界を舞台に活躍する人が多くいます。浅田真央さん、村上佳菜子さん、小塚崇彦君など。皆さんも知っているかもしれませんね。この人たちは皆10代で世界の舞台に立っています。すごいなあ、うらやましいなあ、と思うかもしれません。今日、学ぶイエス様のお母さんになった人も10代の女性だったようですよ。

## 神様の選び

先週学んだザカリヤとエリサベツ夫妻のこと覚えていますか？ザカリヤは、神殿で祭司にとつて一生に一度あるかないかの光栄な務めである「香をたく」という仕事をして

いましたね。この務めは、イスラエル全体を代表して神に仕えるということでも名譽ある仕事で、その最中にザカリヤは神の使いから「赤ちゃんが与えられる」という驚くべき知らせを受けました。そして、口がきけなくなるという特別のしるしを与えられ、人々の注目を一身にあびていました。

ザカリヤ夫婦の赤ちゃん誕生の予告は、華やかな首都エルサレムで起こりました。一方、今日学ぶ、主の母になった人は、ナザレという町に住むマリヤという無名の少女でした。ナザレは貧しい町で、当時の人々は「ナザレから、なんのよいものが出ようか」(ヨハネ1・46)とさげすんでいました。しかし、このナザレに住む無名の少女のところに、ザカリヤに現れた時と同じみ使いガブリエルが現れ、赤ちゃん誕生の予告をしたのです。

神様の選びは不思議ですね。神様は外の顔かたちを見られないで、一人ひとりに目的をもって、その人でなければできない大切な使命をお与えになる方です。必要があれば、石ころからでもアブラハムの子を起こされる力あるお方なのです(ルカ3・8)。

## 主の母となったマリヤ

さあ、マリヤはどんな人だったでしょう。ナザレの町に

12月

## 11日 礼拝メッセージ例

住むマリヤは、神様を信じる心優しい人でした。マリヤにはもうじき嬉しいことが待っていました。大工のヨセフと結婚するのです。ヨセフも神様を信じる信仰深い人で、二人は結婚の日を指折り数えて待っていました。そんなある日のことです。マリヤのところにみ使いガブリエルがきて言いました。「恵まれた女よ、おめでとう。主があなたと共におられます」。マリヤはびっくりして、これはいったいどういうことだろうと胸をドキドキさせて考えこんでいました。すると、み使いは「恐れることはありません。あなたは神から恵みをいただいているのです。あなたは男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい」。マリヤは思わず「どうして、そんな事があり得ましょうか。わたしにはまだ夫がありませんのに」と言いました。み使いは「聖霊があなたに臨み、神様の力があなたをおおうでしょう。生まれてくる子は神様の子供です。親族のエリサベツも神の力によって子を宿しています。神様には不可能なことは一つもありません」と言いました。

## マリヤの信仰

マリヤはみ使いの言葉を聞きながら心の中でいろいろ考えました。まだヨセフと結婚もしていないのに子どもが生

まれるなんて分かったら、ヨセフや周りの人はどう思うだろう。「裏切り者!」と、ヨセフはわたしから離れてしまうかもしれない。また、人々からは「不倫の女!」とののしられ、石打の刑で殺されるかもしれない。マリヤの心にはさまざまの思いがぐるぐるど駆け巡りました。しかし、マリヤは人のことを気にするより、神様に従うことのほうがずっと大切なことだと気づきました。そこで、マリヤはきっぱり答えました。「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」。これは「わたしは神様のものです。神様のおっしゃるとおりにしてください」という意味です。なんと素直で、神様に信頼しきったマリヤの信仰でしょうか。

後にマリヤはこう歌っています。「わたしはなんの価値もない小さな者です。それなのに神様は、こんなわたしに目をとめて、救い主を与えるという約束を守ってください。神様はなんとすばらしいお方なのでしょう」と。私たちも神様のご計画に従っていく、光の子どもになりましょう。

♪むかしユダヤの♪(教会学校せい か 18)



## 聖書 ルカ2・1-7

## テーマ キリスト誕生の場所

## 序論

(金井信生)

キリストは家畜小屋に生まれ、飼い葉おけに寝かされた。神の子が生まれるのにはまったくふさわしくない場所です。しかし、救い主の使命を象徴する場所です。それは偶然でも不運でもなく、キリストはその場所を、私たちに神の愛を届けるために自ら選びとってくださいました。

## 一、貧しい生まれ

身分の低い者は、簡単には身分の高い人に近づくことはできません。でも立場のある人は、苦しんでいる人や困っている人を助けたり励ますために、時を選んで近づくことができます。

私たちはどんなに神を求めても神に近づくことはできません。ただ神が私たちに近づいてくださるほかありません。キリストが貧しい生まれをしてくださったのは、どんなに自分の罪に悩んでいても、重荷に苦しんでいても、その人に近づき、寄り添ってくださるためです。

自分は豊かだ、不足はないと思っているときは、キリストを求めず、永遠の救いを知らないままです。「苦しみにあつたことは、わたしに良い事です。これによつてわたしはあなたのおきてを学ぶことができました」(詩119・71)と歌われているように、私たちも貧しさそのものを恐れることも恥じることもありません。主によつて益に変えられるからです。

またキリストは弟子に謙遜を教え、下座を選びなさいと命じられました。そのためにご自身が最も低くなられ、従う生き方を示してくださいました。放蕩息子(ほうたうし)が落ちてゆくどん底を主は自ら経験し、そこからやり直して父のもとに帰ろうとする者を支えてくださっています。

## 二、閉め出されたキリスト

キリストの誕生を世の多くの人は知りませんでした。それはただ貧しい生まれだったからだけではありません。関心を持たなかったからです。

羊飼いたちはベツレヘムで、博士たちはエルサレムで、出会った人たちにキリストの誕生を伝えていきます。でも実際に出かけて行った人はありませんでした。みんな

12月

# 18日 聖書講解

な日々の生活で忙しかったからです。

ローマの皇帝やヘロデ王のような身分の高い人たちだけでなく、一般の人もキリストを迎える心をもっていませんでした。

さらには神殿でシメオンが祈り、アンナが語り聞かせても、だれも興味を持ちません。礼拝をささげ、祈るために来ているはずなのに、主との生きた交わりを失っていたからです。

仕事のこと、生活のこと、さらには宗教を名乗っている人も、本人は良いことをしているつもりでも、自分の求めを満たそうとするだけで神の義も愛も遠ざけている人は、キリストを閉め出してしまっています。

## 三、主よ、私の心にお住みください

「人の子にはまくらする所がない」（ルカ9・58）とも言われたキリストが、ただ一度、「きょう、あなたの家に泊まることにしているから」（ルカ19・5）と声をかけられたのがザアカイです。ザアカイは金持ちでしたが、孤独で、人からは罪人呼ばわりされていました。しかし、イエス様を迎え入れたとき、ザアカイは救われ、その人生は

新しくなりました。

私たちの心は汚れているかもしれません。心落ち着けるときもなく、神に思いを向けることも少なかったかもしれません。でも、キリストは今も私たちの心の戸をたたいておられます。「良い」と受け入れてくださった恵みをたてる、さらに主との深い交わりに導かれていくのです。

初めから心の中をすみずみまできれいにして、全部主に明け渡しなさいと言っているではありません。そんなことをしていたらとても主を迎えることはできません。主はわたしたちのことをよく知っておられます。汚い心のほんの一隅でも、まず主よおいでくださいと迎えることです。

日々の生活の中で、いつも主が共にいてくださり、私たちの思いを聞き、み言葉を通して語りかけておられることをおぼえましょう。主の導きに従って小さくても決心し、実行していくときに、主にある喜びがあふれ、人生が新しくされます。

## 結論

主はあなたと共に人生を歩みたいと願っておられます。心を開き、キリストを心と生涯にお迎えしましょう。

## 研究資料

(宮澤清志)

この箇所は、イエス誕生の歴史的序文であり、特にアウグストとイエスの「2人の王」の対比を描いている。同時にその両者の背後に働き、歴史を支配される神の姿をも示している。

## テキスト

**1 アウグスト** アウグストとは称号であり、本名はガイウス・ユリウス・カエサル・オクタ비아ヌス。もともと彼はカエサル(シーザー)の姪の子であったが、カエサルの養子となり、その死後、政敵であったアントニウスを倒して、1世紀の長きにわたった内乱を収めて、帝政ローマの初代皇帝となった。紀元前27年から紀元後14年の彼の治世の間に、ローマを中心とする地中海世界に軍事的平和と政治的安定、そして経済的繁栄がもたらされ、いわゆる「ローマの平和」を確立した。このような功績により、彼のおとずれは、当時「福音」(よきおとずれ)と称されていた。

**人口調査** 他の聖書では「住民登録」(新改訳)、「登録」(新共同訳)と訳されており、口語訳聖書の語る人口調査の目的は、住民登録と人頭税の課税、そして戦時における徴兵

のためであった。

**2 クレニオがシリヤの総督であった時に行われた最初の人口調査であった** ルカは、当時の資料を丹念に調べて、できる限り正確に記録しようとしていたようである。彼の福音書の中には、歴史的な背景を示す資料が多数存在する。この箇所も「歴史家ルカ」の真骨頂が表されている。

さて、クレニオがシリヤの総督であった時の住民登録は紀元6年であったと考えられており、マタイが記述する「ヘロデ王の代」(マタイ2:1)(紀元前37〜紀元4)という史実に反する。しかし、最初のとは、「前の」「先立つ」とも訳されている言葉であり、人口調査はおおむね14年おきに行われていたとされているから、聖書に記述された年代は、およそ紀元前8年頃のことであろう。しかし、当時の人口調査には数年を要したから、およそ史実と合致していると考えられている。

**3 登録をするために、それぞれ自分の町へ帰って行った** ユダヤ人は系図を重んじ、またよく知ってもいた。ユダヤの住民登録は、おそらくユダヤの巡礼祭のような機会にあわせて「家系であり、またその血筋」(4)でもある先祖の町に帰郷して登録する形をとっていたようである。そ

12月

## 18日 研究資料

れゆえ、その作業は手間のかかるものであった(2)。

4 救い主は、**ダビデの家系** **ダビデの血統** そして

**ダビデの町** で生まれると預言されている。その預言とは、キリストはダビデの子孫として生まれサムエル下7・12、13、「ダビデの町」ベツレヘムに生まれる(ミカ5・2)というものである。すなわち皇帝の勅令とヨセフの行動とは、図らずも旧約の預言を共に成就しているということになるのである。

5 **身重になつていたいなづけの妻マリヤ** 住民登録の

対象は、成人男子に限られていた。しかし、ヨセフは婚約中に妊娠したマリヤを村人の非難や中傷から守るためにも、ナザレからベツレヘムまでの140キロメートルあまりの道を連れて行くことに決めたのであろう。考えてみれば、身重のマリヤにとつては想像を絶する過酷な旅であったことは想像に難くない。道路事情や医療など、現代とは比べものにならないくらい劣悪な状況下での移動である。

6 **月が満ちて** ルカは、この言葉を預言の成就や期間の満了にも用いていることから、マリヤが臨月にはいったという、いわゆる肉体的な状況を描くだけでなく、神の約束の成就、神の時の到来をも指し示している言葉である。

7 救い主の誕生の瞬間は、**飼葉おけ** に寝かされた救

い主の姿であった。降誕物語において、ルカだけが飼葉おけの幼子を物語る(7、12、16)。飼葉おけは、貧しさ、小ささを物語っており、貧しい者、小さき者への福音を解き明かしたルカならではの表現といえる。しかし、なぜ救い主の誕生が「飼葉おけ」なのだろうか。それは、**客間には彼らのいる余地がなかった** からである。「客間」は、他の多くの聖書では「宿屋」と訳されており(新共同訳、新改訳、フランシスコ会他)、当時の宿屋は1階を家畜用のスペース、2階を客間としていたようであるから、この状況は理解できよう。救い主誕生の出発点は、客間からの閉め出しであった。

全ての時代そして全世界の救い主、王の王にして主なる神であるキリストが、客間から追い出され、飼葉おけに寝かされるということは象徴的である。ルカが描く救い主は、この世の貧しい者、取るに足りない者、弱い者のための救い主の姿を私たちに知らせる。同時にこの姿は現代の忙しい私たちへのメッセージともなる。この世の事に忙しくしている私たちには、この「救い主」を迎え入れる「余地」はあるだろうか。クリスマス、そして年末の今だからこそ考えるべき事柄である。

参考図書 12/11の参考図書に同じ



## 聖書

ルカ2・1〜7

## タイトル

イエス様の誕生の場所は？

## 暗唱聖句

客間には彼らのいる余地がなかったからである。

ルカ2・7

## 目 標

心を開き、キリストを心と生涯にお迎える。

## 導入

(松浦みち子)

あなたは旅行が好きですか？家族や友だちと旅する時、ホテルや旅館や民宿などを利用しますね。ある時は、新幹線など汽車で、またバスや飛行機、船の旅も楽しいですね。どんな時も旅行する時は計画を立て、体調を整えて出発します。だから、旅行の日が待ち遠しくて、わくわくしてその日を楽しみに待ちます。ところが、今から二千年前、王様の命令で旅をしなければならない人たちがいました。その旅は楽しいどころか命懸けでした。日本でも江戸時代に参勤交代といって、地方の大名が、幕府に仕えるために大変な旅をしていました。さて、ヨセフとマリヤは、何のための旅だったのでしょうか。

## 王様の命令の人口調査

今から二千年前、ローマ帝国が世界を支配していました。「世界の道はローマに通じる」とか、「ローマは一日にして成らず」とか耳にしたことがありますか？今日でも覚えられている強大な国でした。イスラエルの国もローマ帝国の支配下にありました。当時の皇帝アウグストが全世界の人口調査をするように命じました。二〇一〇年の秋には日本でも国勢調査が行われましたよ。五年ごとの調査で人口の動きを見たり、仕事の有無などさまざまな調査をして国の政治に役立てます。ローマ帝国も人口調査をして徴税や徴兵の資料作りに役立てたのでしよう。この調査が大変だったのは、健康状態や経済状態など有<sup>ひ</sup>無を言わず、自分の出身地へ帰って登録することが命じられたからです。しかし、この事の中には、大きな神様のご計画が隠されていたのですよ。

## ヨセフとマリヤの旅

ダビデ王の血を引くヨセフと婚約者のマリヤは、ダビデ家の故郷であるユダのベツレヘムに向かつて旅することになりました。ナザレの町からベツレヘムへの旅は相当の距離（約120キロ）があり、しかもお腹の大きくなっていたマリヤにとっては辛い旅だったことでしょう。ロバに

12月

## 18日 礼拝メッセージ例

ゆられ、たくさん荷物を持って旅することを想像するだけでも、「こんな旅、もういやだ!」と叫びたくなるほど大変な旅です。しかし、神様は旧約聖書の預言を成就するためにローマ皇帝をお用いになったのです。この旅を通して、ユダの地ベツレヘムから救い主が誕生する（ミカ5・2）という約束が、実現するのです。もう一つは、神様の愛の配慮です。従順に主に従うマリヤを、神様はどんなに慈しみ、守っておられたことでしょうか。もしもマリヤがナザレで出産すれば、「未婚の母」として人々から中傷や嫌がらせを受けるでしょう。神様は、ナザレの町から遠く離れて出産させることで彼らを守ったとも言えます。ところが、やっとの思いで着いたベツレヘムでしたが、彼らをあたたかく迎えてくれるところはどこにもなかったのです。

## 飼葉おけのイエス様

ベツレヘムは人口調査で人が溢れ、宿屋はどこもかしこも満室でした。しかも、マリヤは月が満ちて今にも赤ちゃんが生まれそうです。親切な宿屋の主人がここでよかったですと提供してくれた場所は家畜小屋でした。臭くて暗い、むさ苦しい所でした。そこで赤ちゃんイエス様は誕生され

ました。マリヤもヨセフも大喜びし、元気なかわいい赤ちゃんを布にくるんで飼葉おけに寝かせました。客間には、彼らのいる余地がなかったからです。

なぜ、神の御子がうす汚れた家畜小屋で誕生されたのでしょうか。それは、どんな人とも友達になることができるよう神様がご計画なさったのです。すべての人を救うためにこの世に誕生されたイエス様でしたが、人々は歓迎するどころか、邪魔者のようにイエス様を家畜小屋の飼葉おけへと押しやりました。

あなたはどうかでしょうか。あなたの心の客間、大切な方をお迎えする場所に、イエス様をお迎えしているでしょうか？ イエス様以外の何かが居座っているでしょうか？ よく、考えて見ましょう。「讚美歌21」443番にこんな歌詞があります。「冠も天の座も、惜しまず捨て、地にくだるみ子イエスを、泊める部屋はない、おいでください、イエスよ、ここに、この胸に」。

私たちも、「おいでください、イエス様、ここに、わたしのこの心に」と、心の客間にイエス様をお迎えいたしましょう。

♪神のお子のイエス様は♪（教会学校せいか 27）



## 聖書 ルカ2・8〜20

## テーマ 喜びの知らせ

## 序論

(金井信生)

クリスマスおめでとうございます。神のひとり子であるイエスがこの世にお生まれになった夜、主の御使いは羊飼いに「民全体に与えられる大きな喜びを告げる」と告げました。キリスト降誕の知らせは、喜びをもって語られ、受け入れる者に救いの喜びをもたらしてきました。

## 一、届けられた喜び

マリヤがイエスを生んだのは、ふだん住んでいるナザレから120キロメートルも離れたベツレヘムちよくれいむでした。それはローマの皇帝が出した人口調査の勅令ちよくれいに従うためでした。この世の権力者は、臨月を迎えて旅をしなければならぬ若い夫婦の苦勞まで顧みてはくれません。力の強い者は、弱い者のために多少の配慮はしても、自ら労苦を負うことはありません。でも、神はそんな旅先で、救い主を生れさせてくださいました。私たちにつきまとってくる不足や不安を共に感じ、共に負ってください、そんな中

でも喜びを与えるためです。

また、御使いの知らせを聞いた羊飼いたちは、当時人口調査の対象にもされないほどに身分の低い人たちでした。宗教家たちからは汚れた人々とみなされ、神殿に礼拝に行くこともできません。でも神はそんな羊飼いたちに、救い主のお生まれを一番に届けてくださいました。この知らせを聞いて救い主に会いに行こうとする心があつたからです。

身分のある人たちは、同じ知らせを聞いても動こうとはしません。イエスは「健康な人には医者はいらない。いるのは病人である」(ルカ5・31)とおっしゃられました。神の目から見、靈的に健康な人は一人もいません。ただほとんどの人は、自分が弱っていることに気がついていないので、神の呼びかけに応えないのです。

「あなたがたいま泣いている人たちは、さいわいだ。笑うようになるからである」(ルカ6・21)。神のもとに近づけない私たちのところに、神の御子が来てくださったのがクリスマスです。「私には神の救いが必要です。私を救ってください」と素直に求め、キリストのお生まれを私のための救いの知らせ、喜びの知らせとして受け取りましょう。

## 二、歩みだす喜び

マタイによる福音書に、東の国から博士（占星術の学者）たちがイエスを訪ねてきたことが記されています。博士たちはイエスに会って何か優れた知恵をいただきたいわけではありません。でもイエスを拝み、献げ物をしました。羊飼いたちはベツレヘムに行き、乳飲み子を見つけてました。一番に救い主に会ったからといって特別な恵みがあったわけではありません。生活を豊かにしてくださいとか、願い事もしませんでした。献げる物は何もありません。しかし、神への賛美の思いにあふれて帰っていききました。

博士たちも羊飼いたちも、何かをもらったからではなく、してもらったからではありません。自分たちも神におぼえられていることを確かめ、これから生きていく中で神が共に歩んでくださることを心に刻むことができたことが大きな喜びでした。この喜びをいただいただけで、人生は新しくなります。

聖書が示している喜び、神の約束に基く喜びは「先取りの喜び」です。今日の前にあるのが困難でも、不安でも、神の祝福の約束に立つて、先に喜ぶことができるの

です。インマヌエル（神は我々と共におられる）と約束されているイエスを信じ、神を礼拝することから、また一歩を踏み出していけるのです。

クリスマスはまことの礼拝の再出発です。かつて、シナイ山で主のご顕現けんげんに触れたところから、イスラエル人の礼拝が始まりました。今度は神のひとり子がこの世に来てくださった、その事実だけで神を賛美し、礼拝するのです。博士たちが帰っていく東の国も、羊飼いたちが帰っていくベツレヘムの野も、今までと変わりはありません。でも主が共におられる信仰と喜びをいただいて変えられた人たちが帰っていきます。

私たちもイエス・キリストがこの世に生れてきてくださった幸いを心から喜び、クリスマスを人生の転機とし、また信仰生涯の再出発の時としてお祝いしましょう。これからの歩みに神の救いの約束が実現していきます。

## 結論

人生最大の喜びの知らせであるキリスト誕生を感謝し、まだ知らない人にも伝えて、共に喜びましょう。

## 研究資料

(宮澤清志)

クリスマスのメッセージのクライマックス。今までの箇所は、今日の聖書箇所「序文」的な役割を担う。

## テキスト

**8 救い主誕生のニュースは、最初羊飼いにたらされた。**  
当時の羊飼いは、社会的には軽蔑されていた存在であった。というのは、彼らが律法の一点一画までも守るということは、職業柄無理<sup>むじ</sup>だったからである。彼らには、人間が作った祭儀律法の遵守よりも、羊の世話が優先されたのである。

**9 主の御使いが現れ** ルカはしばしば御使いの顕現を描写する(12/4冒頭参照)。御使いの顕現は、同時に **主の栄光** をもたらした。栄光(ドクサ)は、神の臨在の顕現であり、主の現れそのものであった。しかし、あくまでもこの言葉は「主のドクサ」であって、この言葉が人に用いられる時には「栄誉」(Iテサロニケ2:6)、「面目」(ルカ14:10)となる。わたしたちは、あくまでも主の栄光を反射させる存在なのであり、決して主の栄光を人間が取ってはならないのである。 **非常に恐れた** 直訳すると「大きな恐れを恐れた」の意味。これは10節の「大きな喜び」

と対になっている。人間が主の栄光にさらされる時、人間の恐れが喜びへと変えられる。圧倒的な神の栄光である。

**10 恐れるな** 直訳は「恐れることをやめなさい」の意味。伝える(Ⓔ)エウアンゲリゾー この動詞の名詞形が福音(Ⓔ)エウアンゲリオンであり、御使いの知らせる「大きな喜び」とは、福音そのものであることが分かる。

**11-12 きょう** ルカ文書に多く用いられている、救いの到来を表す終末的表現(ルカ4:21、5:26、19:9、23:43等)。**救主…主…キリスト** 幼子についての3つの称号は、それぞれに意味のある言葉である。この幼子は、まず**救主**であった。幼子はこの称号のゆえに御使いによってイエス(主は救いである)と名付けるようにと指定されていた(1:31)。イエスの来臨の目的は人類の救いにある。同時に **主**(Ⓔ)キュリオス という称号は、ヘブル語の「ヤーウエ」をギリシャ語に訳したもので、「わたしは在りて在る者である」という、永遠の自存者にして創造主なる神を表す名である。すなわちこの幼子は旧約聖書に啓示された神の名で呼ばれているわけである。同時にこの称号は、時のローマ皇帝にも用いられていたが、すルカによると、この世の救い主として来られた方は、す

べてのものの主であり、また同時に歴史の主でもあると語るのである。そして次の称号である **キリスト**(**ヰ**)**クリストス**) については、ヘブル語の「マシーアハ」(油そそがれた者、すなわちメシヤ)のギリシヤ語訳である。旧約聖書に預言され、待ち望まれてきたメシヤが、時至ってイエスとして到来したことを表している。

**12 しるし** 救い主誕生のしるしとは、飼葉おけの中に寝かせてある幼子である。飼葉おけの中に幼子が寝かせてあるということは、通常ありえないことであつた。それゆえ幼子のしるしとしては十分であつた。と同時に、ここに、全世界の救い主が地上の最も低いところに降<sup>お</sup>り降<sup>り</sup>られた謙遜さ(ピリピ2・6～11)と、この世の王と対置された救い主の姿とが表されている。

**13 御使いの福音の告知に続いて、天の軍勢の賛美が続く。軍勢** とは、軍隊用語が用いられており、文字どおり天の軍隊、天の大軍といった意味が込められている。

**14 いと高きところでは、神に栄光があるように** ラテン語で「グローリヤ・イン・エクセルシス・デオ」。**地の上では、み心になう人々に平和があるように** 御心になう人々とは、「すべての民」(10)の言い換えであろう。もちろん様々な解釈がありうるが、主イエスにおいて、神がす

べての人々を御心になう者として下さるのである。**平和** **和** アウグストの時代、「バックス・ロマーナ」(ローマの平和)という時代が幕を開けた。ローマには平和と繁栄がもたらされようとしていた。しかし、この地上に真の平和をもたらすことのできるお方は、アウグストの平和とは対照的な、飼葉おけに寝ているひとりのみどりごによつてもたらされるのである。

**15～20** これまでの救い主の誕生とその告知の場面に居合わせた三者の様子が描かれる。まず、御使いから主の降誕の告知を聞かされた羊飼いたちは、急いで行つて、救い主の誕生の出来事を人々に伝えた。そして彼ら自身はこの出来事のゆえに神をあがめ、またさんびした。一方羊飼いたちからこのことを伝え聞いた人々は、この出来事を聞いて、不思議に思つた。同じようにこの出来事を羊飼いたちから聞いたマリヤは、これらの事をことごとく心に留めて、思いめぐらしていた。イエスの降誕の現場に居合わせたこれらの人々の違いに心を留めたい。主の降誕の出来事を不思議に思うのみで終わつてしまふ人々のようであつてはならない。このメッセージを語る「きょう」(11)、私たちの信仰の姿勢が問われている。

**参考図書** 12/11の参考図書に同じ

## 聖書

ルカ2・8〜20

## タイトル

喜びのニュース（年末感謝）

## 暗唱聖句

きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生まれになった。

ルカ2・11

## 目標

喜びの知らせであるキリスト誕生を共に喜ぶ。

## 導入

（松浦みち子）

クリスマスおめでとうございます！今日はイエス様のお誕生をお祝いする日です。嬉しい日です。また、二〇一年最後の日曜日礼拝の日です。三月に思いもかけない東日本大震災が起こり、今なお苦しみと悩みの中にいる人々のことも心に覚えて祈る者となりましょう。

## 羊飼いのニュース

「おぎやあ！おぎやあ！」元気な産声<sup>うぐやえ</sup>が家畜小屋に響き渡った、その夜のことで。ベツレヘムの郊外では、羊飼いたが焚き火<sup>た</sup>を囲み、野宿しながら羊の群れの番をしていました。「寒いねえ」、「今晩は特に冷え込むねえ」。羊飼いたちは、恐ろしい動物に羊が襲われないように、

一晩中番をして守っているのです。その時、突然、まぶしい光が当たり一面を照らしました。「わあっ！なんだ!?」羊飼いたちは腰が抜けるほど驚き、ガタガタ震えました。すると、光の中から神様のみ使いが現れ、「恐れなくても大丈夫です。わたしは嬉しいニュースを知らせにきたのです」と言いました。「きょうダビデの町に、あなたがたのために救主<sup>すくいぬし</sup>がお生まれになった。この方こそ、主なるキリストである。その方は、布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてある。それが、あなたがたに与えられるしるしである」。こう告げると、空いっぱいに大勢の天使が現れて神様を賛美しました。「神様に栄光があるように。神様を信じる人たちに平和があるように」と。

## 羊飼いたちの行動

天使たちがいなくなると、羊飼いたちは口々に言いました。「ああ、驚いたねえ」、「夢のようだったねえ」、「救い主がお生まれになったんだあ!」、「すぐに行つて見ようよ」と。急いで、ベツレヘムの町をめざして駆けていき、あちらこちらを探し回りました。ついにみ使いの知らせたとおり、マリヤとヨセフの側で飼葉おけにスヤスヤ眠る赤ちゃんを見つけました。「み使いが教えてくれたとおりだね」、

12月

## 25日 礼拝メッセージ例

「飼葉おけに寝かされているよ」、「なんて、かわいいんだろ?」、「この赤ちゃんが、私たちが待っていた救い主なんだ。うれしいね」、「さあ、みんなにも知らせてあげようよ」と、羊飼いたちはイエス様を礼拝し、神様を賛美しながら、喜びに満ち溢れて帰って行きました。そして、会う人ごとに「救い主が、きょう生まれたんだよ!」、「かわいい赤ちゃんだったよ」、「飼葉おけに寝かされているんだ。天使が教えてくれたとおりだったよ!」と伝えました。羊飼いたちの話を聞いた人々は、「いったいどういうことだろう?」と不思議がるばかりでした。

## 思いめぐらすマリヤ

マリヤは、「この子は、本当に神様の御子だわ。神様は、救い主を送ると約束された通りに、この小さなわたしを通して実現してくださったのだわ」と、深く心に留めました。そして、10か月前、み使いが現れ「恵まれた女よ、おめでとう。主があなたと共におられます」と突然告げられたこと、今また羊飼いたちから、天使の喜びのニュースを聞き、赤ちゃんを拝みに来たことなどを思い巡らしました。マリヤは一つ一つを心に留め、イエス様の母として祈り深くその成長を見守ったのです。

このイエス様の誕生は、大きく歴史を二分する出来事となったのです。BC（キリスト誕生以前）、AD（キリスト誕生後）と、世界の歴史は分けられているのです。なんと素晴らしい救い主の誕生でしょうか。今日も天使の喜びのニュースは世界中に響き渡っていますよ。

今日は一年最後の教会学校の日です。あなたは日曜日の朝、羊飼いたちのようにワクワクした気持ちで教会に行きますか? 神様は、一年の間、あなたを守ってくれました。嬉しいことや楽しいことばかりでなく、悲しいこと、辛いこともあったでしょう。悔しいこともあったかもしれませんね。でもね、神様は、あなたを選んで、主を礼拝するという特権をお与えになつてくれるのです。喜びのニュースを聞いた羊飼いたちを思い浮かべてごらん下さい。彼らは、救い主イエス様を礼拝した後、大きな喜びに満たされて、出会う人々に「救い主に会ったよ!」と伝えましたね。あなたもイエス様を「わたしの救い主」と信じて喜びに満たされ、新しい年を迎えることができるよう祈ります。♪世界ではじめのクリスマス♪（友よ歌おう 18）





# 牧羊ひろば



## 神戸中央教会 教会学校

幼な子らをわたしの所に来るまま  
にしておきなさい。止めてはなら  
ない。神の国はこのような者の国  
である。  
マルコ10・14

●大宣教命令、大牧会命令に  
応答する教会学校とJC・  
YC活動を目指して

私たちの教会は、長らく教会学  
校及びジュニア&ヤングチャーチ  
に力を入れてきました。これまで  
中央教会学校を含む、十校の教会  
学校が開かれてきました。その中  
から二つの教会（西宮聖愛と押部  
谷）が生み出され、今なお働きが  
進められています。幾多の変遷を  
経て、現在は紹介された三つの教会学校とジュニア&ヤ  
ングチャーチが継承されています。閉校余儀なくされた教会  
学校の働きを通して蒔かれた福音の種も、不思議なように  
実を結んでいるとの連絡を受けており、労してきた教師た

ちの大きな喜びとなっています。

さて、これらの働きは、二つのみ言葉によって導かれ、  
また励まされて取り組んできました。一つめは、「あなた  
がたは行つて、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊  
の名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命  
じておいたいつさいのこを守るように教えよ」（マタイ  
28・19〜20）との復活の主の大宣教命令です。二つめは、  
「あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛する  
か。…わたしの小羊を養いなさい。…」（ヨハネ21・15〜  
17）との大牧会命令です。どちらかと言えば、これまでの  
各活動は、前者の大宣教命令に応答すべく、教会学校開  
拓が進められ、幼子と学生また若者の救いを念頭においた  
働きが進められてきました。各教会学校において救霊の実  
が結ばれ、またジュニア&ヤングチャーチにおいて受洗に  
与かる者が起こされてきました。そのために、教師たち  
によつて四つの法則を用いての個人伝道が積極的になされ、  
今も青年また壮年や婦人と、信徒として加わっていること  
は感謝なことです。さらに、第二世代、第三世代の教師と  
して奉仕している者が加えられています。

ところで、ここ数年の傾向として、熊野教会学校と兵庫

教会学校に集う大半の幼子は、それぞれの地域の未信者家庭からであり、その働きは今までのように開拓的です。

良き実を結び、また良き感化が与えられています。中央教会学校は、比較的信者家庭からの幼子であり、家族と一緒に教会に集い、み言葉に養われて導かれている様子が見られます。当然、教師たちの取り組み方や、教案の活用にも違いがあります。ここ二年の間に、教会学校またジュニア&ヤングチャーチ出身の新教師が加わえられており、教師の養成が急務です。人から人への人格的な関わりをもつての器造りがなされていくことを願っています。概して、大宣教命令と大牧会命令に応答していく包括的な取り組みをと願われています。以下に、各教会学校の紹介をいたします。

(牧師 川原嶋晃)

### ●ジュニアチャーチ・ヤングチャーチ

中高生と中高生同世代の子どものための礼拝をしています。毎週日曜日9時から教会の四階で礼拝をしています。礼拝の後、中学生、高校生に分かれて分級を持ちます。月末の日曜日は、日頃来れない中高生にみんなで手紙を書いて、ジュニアの新聞とグッドニュースを送っています。

また月一回は、9時からの一般礼拝に合流します。礼拝のなかで一曲賛美をさせて頂いています。合流のときは礼拝後、スポーツをしたり、日頃ゆつくり話せる時間が少ないので昼食を作って一緒に食べて交わりをしています。

今年は中学一年生が7人も教会学校から進級してきてくれました。教師9人と鎌野直人協力牧師とで奉仕させて頂いています。

中高生は部活、勉強と忙しい日々を送る中で、み言葉に触れ合う時間を持つのがなかなか難しいということを考えて、毎週礼拝のあと暗証聖句を覚えます。6ヶ月ごとに6個のみ言葉を覚えて暗証大会をしています。

今年から、月二回のクロスワードパズルも生徒には好評で、みんな持つて帰って次の週に持参してくれます。また毎週月曜日にみ言葉メールを教師が手分けして携帯に送信



子ども聖書日課



こひつじ

しています。祈ってほしいことがあるとき、平日ならメールでくるときもあります。また聖書日課を少しコンパクトに冊子に編集して配布しています。毎年十二月のクリスマスに「子羊」という証し集を作成して教会で配布し

ています。

＊行事として

四月に歓迎会、五月に母の日のプレゼント作り、六月に花の日訪問で施設や鑑別所、拘留所に花を持っていきます。七月に卓球大会、八月にバイブルキャンプと証し会、九月にスポーツ、十月に交流会、十一月、十二月で「子羊」の原稿書きをしています。一月は元旦礼拝、親睦会、二月は次年度上がってくる六年生とボウリング大会をします。三月は教会で講師の先生を招聘して二泊三日のスプリングキャンプ（しょうへい）をしています。



スプリングキャンプ

教師の霊性のために教師会のまゝに学びをしています。

今年からは教会学校とも連携し別に牧師による研修会も三ヶ月ごとに開くことになりました。

中高生が言葉にふれて、受洗に導かれるように。クリスチャンになつた子どもたちのこれからのために、教師一同祈り、一致して進ませて頂きたいと願っています。

## ●中央教会学校

神戸中央教会で礼拝をしています。

毎週、一〇時四十五分から二部の一般礼拝の時間に合わせ  
て礼拝をしています。教師は九時からの一部の一般礼拝に  
出席して教会学校に備えます。

礼拝は小学生科と幼稚園科と一緒に礼拝をもちます。その  
あと分級の時間に分かれます。出席人数は平均一五人前後  
です。



消防署訪問

大きな行事としては進級式、花の日訪問、クリスマス会などがあります。また、分校と合同でイースター礼拝、春の合同遠足、夏のサマーキャンプ、日振起日合同礼拝、秋の合同遠足。クリスマス礼拝などを行っています。

花の日訪問では、近隣の警察署、消防署にお花を届けます。また、子どもたちが自分たちで書いた作文を読み、警察・消防署への感謝の思いを伝えていきます。夏のキャンプには準備から時間をかけ、このキャンプにしか来れない子どもも多くいることから、一人ひとりがキリストの愛に触れることが出来るように、教師も祈り備え

ています。

クリスマス祝会では、子どもたちは聖誕劇の練習を毎週して、クリスマス会に臨みます。劇を通して、初めて教会に來たお友達に、クリスマスの本当の意味を伝えていきます。教師も近隣の公園などでチラシを配布します。クリスマス会には保護者の方や近隣の子どもたちが参加して一〇〇名近くになる時もあります。

教師は教職一名、信徒教師五名、補助教師三名、神学生一名で運営しています。礼拝前に短い教師会をし、礼拝に備え、月一回教師会を開催しています。



中央教会学校の子どもたち

教会員の子どもが多く、近隣の子どもたちへの伝道が出来ていないことが課題ですが、教会学校に集う一人ひとりが受洗の恵みに与るために、教師一同祈り備え奉仕をさせて頂いております。

## ●熊野教会学校の紹介

太平洋戦争により焦土と化した街の一角、青空のもとで、熊野教会学校は、神戸中央教会学校の分校として産声をあ

げました。そして、小さな魂にみことばの光を宣べ伝えたいと願う多くの方々の祈りと奉仕に支えられ、現在に至ることができています。この紙上にて熊野教会学校の紹介ができることを神様と皆様の前に感謝致します。

### 【立地条件】

熊野教会学校は神戸中央教会から一・五キロメートルほど北にある六甲山系の麓にある古い住宅街にあり、家庭の一室を開放するという形で続けています。教会から離れているため、多くの子どもたちはクリスマスチャンホームではなく、地元の小学校や保育園、また近隣のご家族との結びつきにより集った構成となっています。

### 【集会について】

日曜の朝九時になると子どもたちが集まってきます。遠方の場合には車などを用いて送迎を行なっています。礼拝は広めの洋間に椅子を置き、ピアノとギターの伴奏で前奏、讃美、そしてお話と続きます。時には讃美が盛り上がり何曲も踊りながら歌うこともあります。歌詞カードはパソコンの画面をプロジェクターで表示しています。このパソコンはお話の教材やまたクリスマスのページェントなどにも利用し、集会の雰囲気づくりにとても役立っています。

## 【主な行事】

一月…新年親睦会  
三月…卒業、進級式  
四月…ビデオ大会  
イースター（合同礼拝）

五月…春の遠足  
六月…花の日  
七月…キャンプ  
八月…かき氷大会  
九月…振起日（合同礼拝）  
十月…秋の遠足  
十一月…ビデオ大会  
十二月…クリスマス合同礼拝  
クリスマス祝会、  
キャロリング

## 【課題】

地域的に子どもたちが年々少なくなってきました。特に二年前に近隣にあった小学校の廃校により、ビデオ大会などの特別集会の案内なども難しい状況となっています。音楽やゲームなどを取り入れ、子どもにとって魅力のある



熊野クリスマス

内容にし、み言葉を伝えることができればと願っています。御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。

Ⅱ テモテ 4・2

## ●兵庫教会学校

兵庫教会学校は信徒の方の家を開放して行われています。

週報で今の教会学校の様子を描いてくれました。



兵庫教会学校の週報

兵庫教会学校は三十六年前に三川口の堺安代姉の家で始まりました。そこに梅北博兄や池口あや子姉が奉仕に行かれ、その後引き継がれ松本通で教会学校をしていました。阪神大震災のあと今の上沢五丁目で礼拝をしています。今の家は博兄が大工をされ、みどりの家として建てられました。

教会学校では、カツピ・アキピ・ヒロピ・アヤピ・マコピ・神学生で奉仕させて頂いています。

毎週近くの川池公園で伝道し、礼拝のあとゲームやおやつを用意しています。教会学校ですが卒業生の中学生や高

校生が来るときもあります。教会学校の夏のキャンプやクリスマス会ではバイブルレジャーとして劇もしています。

### 「もし信じるなら神の栄光を見る」



兵庫教会学校の子どもたち

このみ言葉をキーワードとしていきます。兵庫教会学校は、礼拝に来る子どもたちがみ言葉にふれるのが今日一度かもしれないという思いから、今日イエスを信じて帰らないという気持ちで毎週祈り備えて礼拝をさせて頂いています。



バイブルマン

## 「おわりに」

3月11日に発生した東日本大震災によって、被災された諸教会、先生方、兄弟姉妹に、心からお見舞いを申し上げます。

そういう中で、今回も『牧羊者』二〇一一年度第Ⅲ巻をお届けできますことを感謝します。執筆者の方々には、東日本大震災によって色々と大変な中を、貴重な時間を割いて執筆していただき、心から感謝いたします。今回の教師養成講座は、山本敬夫師の「いきいきCS礼拝」を掲載しました。また、「牧羊ひろば」では、神戸中央教会の教会学校の歩みを、川原崎先生とCS教師の兄弟に紹介していただきました。

今号の執筆者、

奉仕者を紹介いたします。

聖書講解

福井文彦師 高橋頼男師 金井信生師

研究資料

山田和幸師 宮澤清志師 中島啓一師 小平德行師

メッセージ例

飯田勝彦師 和田治師 水野晶子師

ワーク(A)

吉田美穂師 鎌野幸師

(B)

野勢かほる師 竹崎光則師

(C)

田代美雪師 小菅央子師

(D)

上森恭子師 田中裕明師

中高科へのヒント

石田高保師 後藤健一師

子ども聖書日課

小野淳子師 土屋直子師 藤井洋美師

フラッシュカード

丹羽遥師 丹羽遥師

イラスト

楠淳子師 長尾明美師

ワーク打ち込み

長田栄一師 加藤清師 山田和幸師

校正

長尾秀紀師 長尾明美師

また、陰で労してくださった各師と兄弟姉妹、ワーク印刷と発送の教団事務所職員の兄弟、印刷のあくもとと菱三印刷に心から感謝いたします。

(長尾秀紀)

聖書教育教案誌 **牧羊者**

二〇一一年度Ⅲ巻

発行所 日本イエス・キリスト教団 教会学校局

企畫監修 日本イエス・キリスト教団 神戸市兵庫区塚本通三三一九

電話 〇七五五七五五五 一五五五 一五五五 一五五五 一五五五

FAX 〇七五五七五五五 一五五五 一五五五 一五五五 一五五五

印刷所 菱三印刷株式会社

\*日本聖書協会『口語訳聖書』使用許諾済み